

Oblige

特集 どうして遊べないのか

日本人と余暇

人物クローネアツブ「学習院と私」

日本オペレツタ協会会長・寺崎裕則

「わが社にようこそ」産業界トップに聞く

京王プラザホテル社長・多村繁樹

天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ

学習院創立125周年

記念式典開催

[桜友会だより]

電線桜友会・アメリカンフットボール部・桜美会・関西桜友会

桜友クラブ主催のイベント案内

いのち
生命の場所
Circle of Life

第15回

地球とはどんな場所なのだろうか。スペースシャトル事故のニュースを見てあらためて思う。そして、ものを食べ、しゃべり、笑い、夢を見て死ぬ人間とはどんな生命なのだろうかとも。

写真／渡辺 潔



マングローブの森から海側にはみ出して立つ小さな木がある。発芽しなかった多くの種子の中で幸運にも発芽し、生きることができた木だ。しかし、森の将来は分からない。鹿児島県奄美大島にて。

「マングローブ」

一人の旅立ちか、森の拡大の先兵か。
森の外にはみ出して生きる木を見つけた。

熱帯や亜熱帯の海岸や河口の汽水域といわれる場所に森を形成するマングローブ。汽水域とは海水と真水が入り混じった低塩分の海水域で一見住みにくそうな環境だが、マングローブにとっては絶好の立地らしい。海岸の泥地に支柱根、呼吸根といわれる根をしっかりとって生きつづけている。種の増やし方も変わっている。満潮時には根元が海水につかかってしまうため、種子は落下したときに海水に流されないように泥地に突き刺さる形となって

いる。条件の良い場所では森がじわじわと場所を広げていく。突き刺さることに失敗して海水に流された種子が別の海岸で発芽することもある。もともと南方系の植物のため、日本では沖縄や奄美諸島でしか見られないが、最近では沿岸部の環境変化のため、その数は激減している。多種多様な動植物が生きることができる環境、それがわれわれ人間の生きる場所でもあるはず。われわれにとっても困ったことなのだろう。

Oblige

[オプリージ]

Spring No.38

2003.3.25

CONTENTS



COVER

北海道・釧路湿原。日本に残された数少ない自然の広がり。こういう空間に身を置く時間が欲しい。
Photographer/Kiyoshi Watanabe

特集 どうして遊べないのか

日本人と余暇



ノーブレス・オプリージ宣言 vol.24

おそどまさこ(トラベルデザイナー).....4



「わが社によろこそ」産業界トップに聞く vol.3

多村繁樹(京王プラザホテル社長).....14

人物クローズアップ「学習院と私」vol.16

寺崎裕則(演出家・日本オペレッタ協会会長).....33

■生命の場所 第15回

「マングローブ」写真/渡辺 潔.....1

■食卓の四季 [19]

ライスパーパー 江上種英.....48

■キャンパスタウン探訪 第3回

四谷.....37

天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ
学習院創立125周年
記念式典開催.....14



中等科・高等科桜友会総会.....40

追悼 高円宮憲仁親王殿下.....17

■桜友会だより

職域桜友会/電線桜友会.....18

輔仁会サークル/アメリカンフットボール部 桜美会 22

全国支部/関西桜友会.....30

OBLIGE CLUB●桜友クラブからのお知らせ

催事・イベントのご案内.....24

OBLIGE伝言板●編集室より.....32

本文デザイン 加藤正博
SPECIAL THANKS
交通新聞社

本誌掲載の写真・イラスト・記事の無断転載および複写を禁じます。

Oblige

20代の頃、私は女性の一人旅をすすめていた。「(株)地球は狭いわよ」というミニ出版社を起こして、女性向き地球一人旅ガイドブックシリーズを出版していた。だから、ひたすらリュックを背負って、年間3分の1はひとり旅。「地球に夢中!旅ガイド」「ヨーロッパに夢中!旅ガイド」などの本を書き、出版しまくった。

29歳で子供を産んだが、旅することをあきらめなかった。

30代、地球子連れ旅がテーマになった。赤ん坊がいて、旅に出られないのはくやしかった。その当時は、女は家庭に入ると外国旅行などとてもない、子供を産んだらどうぶんな旅はあきらめなければならなかった。子連れ旅はタブーなのか? そんなことはないと思っただ。母親がハッピーでないと、子供もハッピーではないと思っただ。娘が3歳になったとき沖繩へはじめて子連れ旅をした。そして、7歳の娘にリュックを背負わせてヨーロッパ50日間の旅へ。日頃つきあえないぶん旅で子育てをしようと思ったのだ。お菓子、気に入っただおもちやなど、自分の荷物を自分のリュックに詰め込ませた。旅は人生と同じであり、できるだけ小さな荷物で快適に旅する術を教えたかった。この旅では娘の好き嫌いをまずなくした。嫌いだったのはトマト。旅先で、「ママのどが渴いた!」という、街の市場でトマトを買い求め、与えた。はじめ抵抗していた娘も、いつしか、トマトを口にするようになった。旅ではテーブルマナーもしつめた。いつか、フォーマルな場所にもおときでも、フォークとナイフの食事にもお

高齢者・障害者のバリアフリー旅行へ!

BON VOYAGE!

おそどまさこ (昭46仏)

トラベルデザイナー

じしないように、と思っただ。ドイツのフロイデンシュタットの町を歩いていたとき、すれ違ったおじさんから娘は5マルクのお小遣いをもらった。白い帽子を手持っていた娘のその帽子の中に、おじさんは、ニコニコしながら、5マルクを押し込んだ。こんな経験は子連れ旅でなければ出来なかっただろう。娘とのスキンシップも十分、子育ての貯金もできた。今娘は24歳、大学を卒業して人生を模索している。

40代からは、ライフワーク探しとなった。人が一生旅立つためにはどうしたらいいか。離婚と重なった。自分の人生の仕切り直し。それまで格安な旅しかしてこなかった私は、一大決心をした。2カ月間、「金にいとめをつ

けない世界一周ひとり旅をしよう」と。トラベルデザイナーとして生きるなら、旅の両極を知ってこそ、人様にアドバイスができると思っただ。離婚を間近にしていたので、真剣だった。1991年夏から秋にかけての2カ月間。足の向くままのコースをとり、途中、超高級ホテルといわれるホテル10軒に泊まってみた。このひとり旅で私は200万円使った。すべて借金。2カ月間の世界一周が200万円か。人間のぜいたくなんてたかがしれていると思っただ。超高級ホテルもそれ自体が観光地だと思えば泊まる価値があるとも感じた。

この旅の途中、モンゴル・ゴビ草原に立ち寄った。これが、私の人生観を変えた。ゴビにプロペラ機が降り立ったが、滑走路がなかった。車で草原を走ったが、目印は月、太陽、風、星だった。360度見渡せる平原の中に車のわだちがついていた。わだちを走ると車輪をもっていかれる。そこで、運転手は草原に車を出した。うまく走れた。モンゴルでは草原すべてが道だったのだ。

その頃、私は次なる仕事のテーマを障害者・高齢者の旅立ち支援、に照準を合わせていたが、自信が持てなかった。が、ゴビ草原は、人生は360度道なのだから、人の後ろを歩くな、と教えてくれた。

そして最大の転機。ロンドンの書店で延べ114人の様々な障害者を持つ英国人の世界旅行体験記『ナッシングベンチャー』を見つけたのだ。コベントガーデンの旅行書専門店「書棚の上の方に置かれていたこの本の背表紙を見つけたとき、身体がふるえた。手にとって目次をむさぼり読んだ。予備の義足をパ

Noblesse

おそどまさこ

フリーランス・トラベルデザイナー。八ヶ岳南麓標高1000mの森の中に仕事場を持ち、女性のひとり旅から子連れ旅、体力に不安な熟年層や身体に障害を持つ人の旅など、旅立ちにくい人の旅の可能性を広げることをテーマに、原稿執筆やツアーを企画をしている。1995年春から、様々な病歴・障害を持つ人が参加しやすいツアーを企画し、同行している。著書に、「障害者の地球旅行案内」（晶文社刊）、「櫃上の地球旅行コツのコツ」（自由国民社刊）など多数。最新刊に「無敵のバリアフリー旅行術」（岩波書店刊）がある。
ホームページ<http://www.womanstravel.net/>



©世界文化フォト

ツグに、中国大陸5000kmを旅した人、サハラ砂漠をハンドコントロールの車で縦断した人、下半身麻痺のペアのアマゾン川船上での金婚式、など、ひとつひとつの体験記にシヨックを受けた。日本とあまりにも違う。チャレンジ精神いっぱいであった。この本の日本

語版を出版しよう、と心に決めた。この本の日本語版『車いすはパスポート』は、延べ67人の体験記を収録して2年後、山と溪谷社から出版された。次第に身体の不自由な人の旅を手がける自信のようなものがもたらされてきた。その後の取材で盲導犬は航空運賃が無料で

ある、ことを知った。無性にツアーを作りたいくなり、視覚障害者を探した。1995年2月、盲導犬も連れていく視覚障害者にやさしいフランスツアーを実施した。参加者18名と盲導犬4頭。私が企画した初の本格的な障害者ツアーだった。

そのツアーから丸8年がたち、現在、大手旅行会社主催のおそどまさこ企画ツアーの参加者総数は延べ702人、盲導犬58頭となった。参加者は半分が健常者、半分が障害のある人。障害のある人の内訳は50%が視覚、残りが肢体不自由、数パーセントが、腎臓の透析、胃の全摘出など内部障害の人だ。

飛行機旅行の場合、座位がとれる人は旅立っている。座位のとれない人も飛行機の中でベッドをつくるので、費用はかかるが、旅立てないことはない。知的に障害のある人もOK。精神障害の人も、友人はツアーを作り、同行している。

そもそも、この社会は自分は障害者だと思っている人、思っていない人、思いたくない人、健常者だと思っている人などで構成されている。が、ほとんどの人が小さな障害を持っていると思う。老眼がそうだ。最近耳が聞こえにくい、物忘れが気になる、長く歩くと足が痛いなどなど。

障害は別世界のことと考えるのは間違っているのである。

誰でもが、旅立ちたいと思ったら、地球のどこまでも旅立てるようにしたい。今のうちに社会をそのレベルにまで作り上げておこう。人が一生旅立つ方法、答えはそこにあると思う。

特集

どうして遊べないのか

日本人と余暇

LEISURE NIPPON

日本人は遊ぶことがヘタだといわれている。
一方で余暇・レジャーはあらたな経済効果が期待される、
かつ人間らしい営みとしての位置づけがなされている。
遊びたいのに遊べない、というのが多くの日本人のため息まじりの実感だろうが、
本当にそうなのか、どうしてそうなのかを、
歴史をたどりながら考えてみよう。

文／善田紫紺 (昭57史)

今度の休み、何をやるの？

3月末、学校は今、春休みである。そして社会は年度末。明けて4月になれば、新学期や新年度を迎えて人々は、勉強や仕事に気持ちを新たにしよう。

ところでこの年度の切り替わる時期に、例えば1カ月の長期休暇をとる日本人はまず、いないだろう。だが欧米人は新学期や新年度を迎える前に、1〜2カ月の休暇をとることがよく知られている。彼等は生活レベルに関係なく皆が当たり前のように長期休暇をとる。総合開発研究所が長期休暇取得日数について近年行った調査によると、日本人の約半数が6〜9日だったのに対して、ドイツ人では63%が20〜29日の休暇をとっていた。

もともとヨーロッパに長期休暇が発達したのは、高緯度で夏が短く、できるだけ長い休みをとって存分に太陽を浴びるためだったといわれるが、夏休みが始まると彼等はキャンピングカーにありったけの生活用品や遊具を詰め込んで、キャンプ場や友人宅を泊まり歩く放浪の旅に出発する。そして気に入った場所に基地を構えては、半裸で寝そべり一日何もしないで過ごす。美しい自然の中に身体をさらけ出し、太陽の光を浴び、風に吹かれ、気が向いたらあたりを自転車で行ったり、湖にボートを浮かべたりする。彼等にとってヴァカンスは非日常感と無為の喜びのためにあるのだ。

これに比べて日本人の休暇の過ごし方はどうだろう。社会人がとる夏期休暇は先の数字

でもわかるように、お盆を挟んでせいぜい1週間がいいところだ。また日本ではゴールデンウィークというのがある。4月末のみどりの日に始まって、子供の日まで、うまくすれば連続して10日間近くの休暇になる。だがゴールデンウィークにしろ、お盆休みにしろ、国民の休みがこの時期に集中するために道路は大渋滞。休養するために訪れたリゾート地も、都会がそこに移動してきただけの大喧騒となり、人々はみなスポーツだ買い物だ遊覧だど、何かしらやっつけていないと気がすまないくらい忙しい。

こう考えると日本という国は、快適に「休む」ことがなかなか難しい国である気がする。そして日本人とは「余暇を楽しむこと」や「遊ぶこと」があまり上手でない人種であるように思う。なぜなのだろう。日本人は、昔からそうした民族だったのだろうか。



どうして遊べないのか

日本人と余暇

LEISURE NIPPON

農村社会の「オン」と「オフ」

日本人の余暇史

余暇の歴史

現代社会において「余暇」とは「生活時間全体から労働時間と生理的に必要な時間を除いた残りの時間」という風に定義されている。だがこれは、近代社会の労働形態のもとで成り立つもので、それ以前の時代には必ずしも当てはまるものではない。

そもそも日本人は働くことに生きがいを感じる民族で、余暇を楽しむことにはあまり馴染まない民族だといわれてきた。その理由は日本人が農耕民族だったことにある。つまり農業社会の労働とは工場での労働と違って、日の出・日の入りや四季の変化といった大自然のリズムや人の生理に従う活動である。だから1日のうちのどこからが労働でどこからが余暇なのかが判然としない生活——すなわち計画的かつ自主的な休みのとれない生活が習慣化してきたせいであるというのだ。だが、昔の日本の農村社会にも「余暇」と呼べるものがないわけではなかった。ただし農村社会の余暇における遊びや楽しみは、現代人のような個人的なものではなく、共同体全体のものであったという。

農村社会の中の余暇

大自然と同調しながら農耕を営む民衆の生活には、次第に労働と休息の自然なサイクルができてきた。労働を中心とする日常生活と年に何回かある「祭り」という非日常の交代

である。稲作社会では春に田の神を山から迎える祭りがあり、秋には収穫を感謝する祭りがあつた。これに夏祭りと正月が加わり、さらに土地の神や村人の生活に関わる年中行事が様々な形でとり行われ、農民たちの基本的な生活に彩りを添えていたのである。

この日常生活と祭りの交代を、日本の文化においては「ハレ」と「ケ」という概念で表した。ハレは普段の日常生活「ケ」に対する非日常の生活のことで、今でも残る「晴れ着」とか「晴れの舞台」という言い回しは、この名残りと思われる。ところでハレとケの間には、ケの霊力（人間の労働を支える力）が枯れた状態を表す「ケガレ」が存在し、これを振り払うために「ハレ」の場を用意して、ケの霊力を蘇らせるのが「祭り」だという考え方があつた。つまりハレの場とは日常生活のエネルギーを回復する場でもあり、日々の労働に備えて休んだり遊んだりするという現代の余暇に通じるものであつた。

ハレの日に働くものは、ハレの場を汚すものとみなされ、祭りの時には一切の労働が禁じられた。そしてハレの日には村の人々が一堂に会し、衣服を正して神祭りをとり行つた。このことは共同体を構成する村人の互いの絆を確認するうえでも大事なことであつたが、その厳粛かつ神聖な神事が終わると、人々は神に捧げた酒や食べ物飲み食いして祝宴を行つた。

直会なほひと呼ばれる祭りの楽しみと遊びに発展

する部分である。

祭りと遊び日

宴席で人々はときには羽目を外して、無礼講と呼ばれる馬鹿騒ぎを演じた。こうした宴とは別に、色々な工夫を凝らした「遊び」も行われた。例えば男たちがみこしを担いで海に入ったり、泥をぶつけ合ったり、松明を持って練り歩いたりするようなもので、これらの一部が今日も奇祭として各地に残されている。

このように祭りは神と人が出会う聖なる時間であるとともに、人間の中にひそむ「生」のエネルギーを解放する生き生きとした「遊び」の時でもあつた。

農耕社会における民衆の「余暇」は、こうした共同的な祭りの中で長く楽しまれてきたのである。

祭りが以後、民衆の余暇として発展していった証拠として、17世紀の農村に「遊び日」というものが存在していたことが、「村の遊び日」（古川貞雄著）に明らかにされている。これは近世の信州の農村における遊休日について分析した研究だが、それによると遊び日は17世紀に村落共同体を基礎としてでき上がったもので、祭礼日を中心としており、当初は年間20〜30日ほどあつたという。これが18世紀後半くらいから次第に増大し、多いところでは年間50日にも達していた。遊び日は、今でいうところの年休とはまったく意味を違えたものだが、日本人は昔から馬車馬のように、働くことだけに生きがいを感じる民族ではなかったのだ。

こうした農村社会が確立する近世以前の人々の余暇生活をもう少し見てみることにしよう。

現代日本人の余暇活動 — 何して遊んでいますか？

(単位:%)

〈その1〉 スポーツ部門

	全体 N=	男性							女性						
		男性全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	女性全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上
(1)ジョギング、マラソン	2,431	1,196	78	208	218	196	213	283	1,235	66	199	240	194	244	292
(2)体操(器具を使わないもの)															
(3)トレーニング															
(4)エアロビクス、ジャズダンス															
(5)卓球															
(6)バドミントン															
(7)キャッチボール、野球															
(8)ソフトボール															
(9)サイクリング、サイクルスポーツ															
(10)アイススケート															
(11)ボウリング															
(12)サッカー															
(13)バレーボール															
(14)バスケットボール															
(15)水泳(プールでの)															
(16)柔道、剣道、空手などの武道															
(17)ゲートボール															
(18)ゴルフ(コース)															
(19)ゴルフ(練習場)															
(20)テニス															
(21)乗馬															
(22)スキー															
(23)スノーボード															
(24)釣り															
(25)スキndaイビング、スキューバダイビング															
(26)サーフィン、ウインドサーフィン															
(27)ヨット、モーターボート															
(28)ハングライダー、パラグライダーなど															

余暇重視、仕事重視？

平成12年は仕事重視派が多く、平成13年は余暇重視派が仕事重視派を上回った。両立派という答えもあり、平成13年は両立派が過去最高の値となっているのが特徴。男女別に見ると男性では依然として仕事重視派が多いが、割合は減少している。

『レジャー白書2002』に見る

年代別余暇活動参加率

『レジャー白書2002』(財団法人自由時間デザイン協会編集・発行)による。全国の15歳以上の男女3000人を調査対象とし、有効回収数2431(回収率81%)。調査時期は平成13年12月。1年間に1回以上参加した余暇活動の参加率。

どうして遊べないのか

日本人と余暇

LEISURE NIPPON

「遊び」に含まれるもの

日本の「遊び」文化

遊ぶという言葉の発祥

余暇という言葉がなかった古代、余暇と内容的に重なるのは「遊び」だった。「遊び」には、もともとどのような意味があったのだろうか。

古事記や日本書紀には様々な遊びが登場するが、遊びはまず、祭祀に関わる行為であり、葬礼に際して死者を送る歌舞や、祭りの折に神に捧げる芸能を意味した。古事記の「天の岩戸」には、アメノウズメが岩戸の前で面白く踊ったことが「あそびをし」と記されている。彼女の芸は、岩戸に隠れた天照大神に捧げられた「神遊び」だったのである。また、天若日子という神様が天孫降臨の下調べに降りてきた際に、神様の使いの鳥をうるさがって射た矢に自ら当たって死んでしまう話がある。この葬送儀礼の際に歌い舞うことを古事記ではやはり「遊」と表している。

今日で考えれば亡くなった人の前で歌や踊りをするというのはなんとも不謹慎なことだが、この時代死ぬことは人の体から魂が遊離してゆくことだと考えられ、歌ったり舞ったりすることで魂が呼び戻されることを願ったのである。

また遊びには詩歌や管絃を行うという意味があったことも日本書紀の中に記されている。そして記紀や万葉集などでは戸外や山に旅に出かけることを「遊行」といい、これも遊びのひとつと考えられていた。

自然の中での遊び

さらに遊ぶには「狩をする」という意味もあった。昔の人は動物を神の化身と考え、その動物を殺して獲る時には、動物をお祭りしなければならなかった。そのことを「遊ぶ」といったのである。古代には、動物だけではなく、山には山の神が、川には水の神が、田には田の神がいて穀物には穀霊が宿っていた。今ではもう見られないがその昔は田植えの時には早乙女が身体を清めて田に入った。そして田植え歌を歌い、そばで太鼓や笛などのおはやしをした。そうすることで豊作を願うのだが、こうした「田遊び」が発展し、中世には「田楽」や、こつけないしぐさを見せたりものまねや掛け合いをする「猿楽」（のちの狂言の原型）が生まれるのである。

一方、動物の姿をかりて古代から中世にかけての民衆の「遊び」を描いたものに、「鳥獣戯画」がある。有名なウサギと蛙の相撲、猿やウサギや鹿の水浴び、などを見ると当時の民衆もこんな遊びをしていたということがうかがえる。この絵には、囲碁や双六、打毬をする人々の姿も描かれていて、この時代の貴族社会からもいろいろな遊びが伝えられてきたことがわかるのである。

貴族階級の余暇文化

ところで生産活動に従事しない支配階級の余暇は、農耕生活を土台にした農民たちのそ

れとは内容を異にしていた。洋の東西を問わず、文化の発展というのは支配階級の余暇に依拠したものが多く、日本ではその最たるものが平安時代の貴族文化だった。律令国家の頂点に立った貴族階級は宮廷を中心にサロンを作り、華やかな余暇生活を楽しんだ。この時代は中国から独立した独自の日本文化が多く生み出されたが、その代表が和歌や物語などの文芸だった。不滅の恋愛文学である『源氏物語』をはじめ、『枕草子』のような知的なエッセイ、さらには『古今集』などの歌集も多く世に出された。またこうした貴族をスポンサーとして、衣装や家屋の調度品、建築そのものにも日本独自の素晴らしい工芸文化が発達した。こうした文芸や工芸の伝統は後に引き継がれ、江戸時代になって支配階級だけでなく、町人や農民たちも文芸を趣味として楽しむようになった。そして貴族の連歌に起源を持つ俳諧は、世界で最も短い俳句という詩の形となって愛好者を広げ、さらに町人たちはこれらを皮肉った川柳や狂歌を作って楽しんだのである。

*『広辞苑』で「遊ぶ」引いてみると「日常的な生活から心身を解放し、別天地に身をゆだねる意。神事に端を発し、それに伴う音楽・舞踊や遊楽などを含む」とある。さらに「①かぐらをする。転じて、音楽を奏する。②楽しいと思ふことをして心を慰める。宴會・舟遊び・遊戯などをする。③狩をする。また、野山などを気楽に歩き回る。遠出をして風景などを楽しむ。④子供や魚鳥などが無心に動きまわる。⑤他の土地に行き風景などを楽しむ。また、学問などのために他郷に行く。⑥生業を持たずにぶらぶら暮す。仕事がなくひまである。⑦金・土地・道具などが利用されないでいる。⑧酒色やばくちにふける。また、料亭などで遊興する」が記載されている。

現代日本人の余暇活動——何して遊んでいますか？

(単位:%)

〈その2〉 趣味・創作部門

	全体 N=	男性							女性						
		男性全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	女性全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
(1)文芸の創作(小説、詩、和歌、俳句など)	2,431	1,196	78	208	218	196	213	283	1,235	66	199	240	194	244	292
(2)写真の制作	5.1	3.4	9.0	3.8	1.8	2.0	3.3	3.9	6.7	19.7	4.5	5.4	7.2	6.1	6.5
(3)ビデオの制作・編集	11.8	16.1	9.0	6.3	17.0	17.3	18.3	22.3	7.5	21.2	10.6	9.6	6.2	3.7	4.8
(4)ビデオの鑑賞(レンタルを含む)	5.4	8.2	3.8	2.9	15.1	15.8	4.7	5.3	2.8	6.1	6.5	3.8	2.1	0.8	0.7
(5)コーラス	43.4	47.7	62.8	62.5	61.5	58.2	39.0	21.2	39.2	71.2	59.3	56.7	44.3	27.5	10.3
(6)洋楽器の演奏	3.1	1.0	6.4	1.0	0.5	—	—	1.4	5.1	7.6	3.0	5.0	5.7	5.3	5.5
(7)邦楽、民謡	7.2	7.1	20.5	10.6	11.5	4.6	2.8	2.5	7.4	21.2	9.0	10.8	7.2	4.9	2.4
(8)絵を描く、彫刻する	2.0	1.4	2.6	1.4	0.5	0.5	0.9	2.8	2.6	3.0	1.0	0.8	—	3.7	5.8
(9)陶芸	7.8	6.5	24.4	5.8	5.0	2.6	5.6	6.7	9.1	37.9	9.5	4.2	6.7	7.8	8.9
(10)趣味工芸(組みひも、ペーパークラフト、革細工など)	2.9	1.9	3.8	1.4	0.9	2.0	2.8	1.8	3.9	1.5	5.0	4.6	4.1	3.7	3.1
(11)模型づくり	4.5	1.8	2.6	0.5	3.2	1.5	0.9	2.1	7.1	3.0	5.5	8.3	6.7	9.8	6.2
(12)日曜大工	2.7	5.0	3.8	6.3	6.4	7.7	5.2	1.4	0.5	1.5	0.5	1.3	0.5	—	—
(13)園芸、庭いじり	13.3	24.0	10.3	8.7	16.5	24.5	35.2	36.0	3.0	3.0	2.5	5.4	5.2	1.2	1.4
(14)編物、織物、手芸	37.4	31.8	5.1	6.7	19.3	30.6	46.5	56.9	42.9	1.5	18.6	33.3	48.5	60.7	58.2
(15)洋裁、和裁	12.8	0.4	—	—	0.5	0.5	0.9	0.4	24.9	22.7	22.1	23.3	24.7	24.6	28.8
(16)料理(日常的なものを除く)	9.0	0.3	1.3	—	—	—	0.5	0.7	17.3	9.1	14.1	20.0	13.4	21.3	18.5
(17)スポーツ観戦(テレビは除く)	10.1	7.4	19.2	7.7	7.8	6.6	5.6	5.7	12.6	34.8	14.6	12.9	9.8	14.3	6.5
(18)映画(テレビは除く)	19.3	27.2	30.8	28.8	26.1	36.7	25.4	20.5	11.7	12.1	14.6	17.5	13.9	9.0	5.5
(19)観劇(テレビは除く)	37.1	34.4	53.8	45.7	38.1	42.9	28.6	16.6	39.8	65.2	58.3	46.3	50.5	30.3	16.8
(20)演芸鑑賞(テレビは除く)	11.7	6.3	10.3	5.3	5.0	4.6	5.6	8.5	17.0	16.7	13.6	13.3	19.1	20.5	18.2
(21)音楽会、コンサートなど	5.2	4.7	3.8	2.4	2.8	2.6	7.5	7.4	5.7	7.6	4.5	2.9	6.2	8.6	5.8
(22)音楽鑑賞(CD、レコード、テープ、FMなど)	22.5	15.5	19.2	17.3	15.1	13.8	17.4	13.1	29.3	30.3	28.1	27.1	36.6	33.2	23.6
(23)美術鑑賞(テレビは除く)	40.6	41.2	61.5	60.1	55.5	45.4	30.0	16.3	40.1	74.2	63.3	54.6	45.4	25.0	13.7
(24)書道	15.2	11.8	7.7	5.3	9.2	13.3	14.1	17.0	18.5	15.2	17.6	15.4	22.2	21.3	17.8
(25)お茶	4.9	2.8	3.8	1.0	0.5	2.6	3.3	5.7	7.0	13.6	3.0	2.9	8.2	9.0	8.9
(26)お花	3.2	0.8	—	0.5	0.5	1.5	0.9	1.1	5.4	9.1	1.5	4.6	5.2	7.8	6.2
(27)おどり(日舞など)	4.4	0.5	—	1.4	—	—	0.9	0.4	8.3	6.1	3.0	5.4	7.7	11.5	12.3
(28)洋舞、社交ダンス	1.2	0.3	—	—	—	—	0.5	0.7	2.2	—	—	—	1.5	3.3	5.5
(29)パソコン(ゲーム、趣味、通信など)	2.1	1.1	—	—	0.5	—	0.9	3.5	3.1	3.0	1.0	0.8	1.0	4.9	6.2
(30)学習、調べもの	37.9	45.3	60.3	55.3	58.7	58.2	39.9	18.7	30.8	45.5	47.2	41.7	35.1	26.6	7.9
	17.0	19.0	39.7	19.2	16.5	18.9	19.2	14.8	15.1	33.3	22.1	12.9	21.6	13.9	4.5

余暇時間と余暇支出

ここ数年を見ると余暇時間が増えたと感じている人は減少傾向にある。平成13年は前年に比べ0.5ポイント増となっているが、同時に減ったと感じている人が10ポイント上回っている。余暇支出については増えたという人は減少、減ったという人が増大。

どうして遊べないのか

日本人と余暇

LEISURE NIPPON

娯楽の大衆化の歴史

江戸から現代へ！

江戸時代に花開く娯楽

庶民の娯楽が文化として発達したものだといえは、歌舞伎である。歌舞伎は当初、あてやかな女性の踊りを中心とした見世物だったが、これが禁じられると若衆歌舞伎、ついで野郎歌舞伎が生まれて数々の名作を輩出した。芝居小屋を訪れることは、観劇のほかに連れたちと飲食や交流を楽しむ社交の面があった。非日常空間の出現である。

そして非日常の楽しみといえば「旅」だ。戦乱のない江戸時代は交通網も整備されて旅行が盛んになった。旅はもともと古代から「参詣」という形で行われてきたが、こうした伊勢参りや金毘羅参りもこの時代には観光化した。江戸からより手軽に行ける大山詣や江ノ島や鎌倉を目指す小旅行なども流行し、ガイド役の出現や旅行案内の出版も盛んに行われた。こうした旅行案内には宿場間の距離や旅籠賃、人足賃、名所案内やみやげ物などまで記しており、現代のガイドブック並みだったという。これらと併せて、『東海道中膝栗毛』のような旅行文芸や各種の紀行文、名所図会なども出版された。

また、すでに10世紀頃から始まった「湯治」もこの時代盛んに行われた。湯治は農閑期に骨休めのために湯治場へ長期滞在する習慣で、最初は1週間程度のものでしたが、次第に長くなつていったという。湯治旅行は明らかに長期滞在型の余暇であつて、今日欧米で行

われているヴァカンスに近い休暇形態の起りと考えることができるのである。

遊ぶことは罪悪か？

このように江戸時代、庶民たちの余暇生活における娯楽は様々な民衆文化を作り出した。だが明治時代以降の近代工業化と共に、日本人の余暇生活は一変した。『野麦峠』や『女工哀史』などに知られるきびしい工場労働が、一般化していくせいである。

一方、開国による西洋文化の移入が日本の娯楽生活にもたらした影響も多大なものがあった。スポーツ、活動写真、レコードの普及そしてラジオ放送の開始は新しい情報メディアとして、日本人の娯楽生活に画期的な進展をもたらした。特に震災で江戸の面影を消した「東京」の繁華街には喫茶店やダンスホール、バーなどが建ち並び、レビュウなども流行した。大正期に端を発したマスメディアを媒介とした大衆娯楽の普及は、現代にいたるまでその形を変えずに拡大している。このことから考えると、現代の余暇生活のベースはこの時期に形作られたといえそうである。

だが、いずれにしても、近代産業社会の発展は日本国民に勤勉を奨励し、その後の軍国主義とあいまって「休んだり遊んだりすることを罪悪視する」国民道徳を生み出してしまつた。国家総動員法が発令されると「贅沢は敵」とばかりに衣食住の節約や娯楽が禁じられ、戦争末期には「月月火水木金金」の歌が作ら

れて、国民たちは一様に、休日をなくして精神主義で頑張り抜くという状況に追い込まれる。こうした思考の傾向は、戦後の復興と高度成長時代にも根本的に改善されることがなかった。日本人の余暇生活のあり方は結局、「余暇＝あまった時間」という概念のままきちんと見直されることなく今日に至つてしまつたのだつた。

余暇生活に必要なこと

日本人は小さい時から何かにつけて「頑張り」といわれて育つ。

過労死やストレスによる疾患の低年齢化が社会問題となつて現代社会において、日本人はどう考えても頑張りすぎだ。だが頑張ることが美德として身体に染み付いてしまつている私たちに、いきなり「頑張るな」とか「人生、楽しめ」などといわれてもそう簡単にできるものではない。「頑張る」こと自体は決して悪くないし、頑張つたご褒美に自分に休みをあげたり、頑張るために十分な休養をとるといふのも余暇の考え方だからだ。

問題はその余暇の過ごし方にある。休をとつたものの、どう過ごしていいかわからないうえに、次々と予定を詰め込んで休みを埋めるという貧しい余暇生活を送る日本人が大勢いる。娯楽施設へ行くのも旅行に出るのも自分としては積極的に余暇をクリエイトしているつもりだが、実はそこに大きな思い違いがある。映画もコンサートもバック旅行もすべてが与えられたものの享受でしかない。人はどうであれ、自分が本当に楽しいと思ふことを実践すること。そして、無為の境地には至れなくとも、せめて「余暇を手作りすること」を心がけてはどうだろうか。

現代日本人の余暇活動 ― 何して遊んでいますか？

(単位%)

〈その3〉 娯楽部門

	全体 N=	男性							女性						
		男性全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	女性全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上
	2,431	1,196	78	208	218	196	213	283	1,235	66	199	240	194	244	292
(1)囲碁	4.1	7.4	6.4	2.9	2.3	5.6	9.4	14.8	0.9	4.5	1.0	0.4	2.1	-	0.3
(2)将棋	9.4	17.1	25.6	10.1	10.1	23.0	20.2	19.1	1.9	6.1	1.0	2.9	5.2	0.0	0.3
(3)トランプ、オセロ、カルタ、花札など	26.0	24.2	55.1	22.1	28.9	33.2	19.2	11.3	27.8	45.5	32.2	40.0	34.5	20.1	12.7
(4)カラオケ	47.2	50.1	67.9	60.1	48.6	50.5	51.2	37.8	44.5	80.3	63.3	45.8	42.8	42.6	25.0
(5)テレビゲーム(家庭での)	28.7	35.5	79.5	60.1	45.4	42.3	14.1	8.8	22.1	65.2	31.7	32.9	25.3	9.4	5.5
(6)ゲームセンター、ゲームコーナー	19.8	21.5	51.3	41.8	29.8	24.0	4.7	2.8	18.2	42.4	41.2	31.7	11.3	3.3	3.1
(7)麻雀	9.0	15.1	10.3	19.7	11.9	19.4	18.8	9.5	3.2	4.5	4.5	2.9	1.0	4.1	2.7
(8)ビリヤード	6.8	10.1	24.4	27.4	9.6	4.1	5.6	1.4	3.6	9.1	12.6	2.9	2.1	-	0.7
(9)パチンコ	17.7	27.1	3.8	39.4	32.1	33.2	31.9	12.7	8.7	1.5	16.6	9.2	9.8	10.7	2.1
(10)宝くじ	36.0	41.2	11.5	36.5	49.1	45.4	46.5	39.9	31.0	1.5	29.6	35.8	31.4	43.0	24.3
(11)中央競馬	8.9	13.7	2.6	17.3	15.6	15.8	15.5	9.9	4.2	0.0	5.0	6.3	2.1	7.0	2.1
(12)地方競馬	1.8	2.5	0.0	4.8	2.8	2.6	2.3	1.4	1.1	0.0	1.0	1.7	0.5	0.8	1.4
(13)競輪	0.7	1.1	-	1.0	0.0	0.5	2.8	1.4	0.3	-	0.0	0.4	0.5	0.0	0.7
(14)競艇	1.2	2.2	-	3.8	0.5	3.1	2.3	2.1	0.3	-	1.0	-	-	0.4	0.3
(15)オートレース	0.5	0.8	-	1.4	0.0	1.0	0.9	1.1	0.1	-	-	0.4	-	-	-
(16)外食(日常的なものを除く)	71.5	69.1	62.8	68.8	74.8	75.5	71.4	60.8	73.8	69.7	76.9	75.0	79.9	75.8	65.8
(17)バー、スナック、パブ、飲み屋	36.6	50.7	11.5	56.7	54.6	63.3	64.3	35.0	22.9	12.1	41.7	27.5	26.3	22.1	7.2
(18)クラブ、キャバレー	3.2	6.3	-	5.8	6.9	8.7	8.9	4.2	0.3	1.5	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0
(19)ディスコ	0.9	1.2	-	4.8	0.5	-	0.5	0.7	0.6	1.5	1.0	0.8	1.5	-	-
(20)サウナ	9.3	11.9	9.0	13.0	10.1	14.8	15.5	8.5	6.7	3.0	9.5	7.9	5.2	7.4	5.1

(単位：%)

〈その4〉 観光・行楽部門

	全体 N=	男性							女性						
		男性全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	女性全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上
	2,431	1,196	78	208	218	196	213	283	1,235	66	199	240	194	244	292
(1)遊園地	33.4	31.3	38.5	32.7	54.1	38.8	16.9	16.3	35.5	53.0	48.7	66.3	33.0	18.4	13.4
(2)ドライブ	56.6	60.4	39.7	72.6	68.8	62.2	60.1	49.5	53.0	42.4	69.3	66.3	50.0	55.3	33.2
(3)ピクニック、ハイキング、野外散歩	32.0	31.3	14.1	19.7	38.1	35.7	32.4	35.3	32.6	18.2	33.2	40.0	31.4	41.4	22.9
(4)登山	7.7	8.2	9.0	5.3	6.4	6.1	12.2	9.9	7.1	9.1	4.5	4.6	8.2	13.5	4.5
(5)オートキャンプ	7.0	8.0	9.0	12.0	11.9	13.8	3.8	1.1	6.1	6.1	7.0	13.3	9.3	1.2	1.4
(6)フィールドアスレチック	3.5	3.3	1.3	1.0	9.6	7.1	0.5	0.4	3.7	1.5	2.0	11.7	5.2	0.4	0.7
(7)海水浴	23.4	25.9	35.9	35.1	43.1	36.7	11.7	6.4	20.9	27.3	32.2	42.5	22.2	6.1	5.5
(8)動物園、植物園、水族館、博物館	40.6	37.5	23.1	30.3	59.6	42.9	29.6	31.8	43.6	39.4	47.7	69.2	39.7	38.5	27.7
(9)催し物、博覧会	24.9	22.0	15.4	12.5	24.3	26.5	25.8	23.0	27.7	18.2	20.6	29.2	35.6	31.6	25.0
(10)帰省旅行	22.6	22.8	6.4	18.3	32.1	27.0	26.3	18.0	22.3	13.6	22.1	26.3	28.4	25.4	14.7
(11)国内観光旅行(避暑、避寒、温泉など)	58.9	55.9	38.5	43.8	53.2	56.7	62.0	65.0	61.8	42.4	53.3	59.2	60.8	70.5	67.5
(12)海外旅行	11.6	10.1	6.4	11.1	7.3	10.2	11.3	11.7	13.1	9.1	20.1	11.7	9.8	16.0	10.3



株式会社 京王プラザホテル
代表取締役社長

多村繁樹

昭和46年に新宿にオープンした京王プラザホテル。オープン当時は、日本最高層の建物で、現在の高層ホテルのまさに先駆けとなったホテル。そして今、次々と新しいホテルがオープンし、迎え撃つ立場の京王プラザホテル。そのホテルを、どこへ導いていくのか、多村社長に話を伺った。



多村繁樹 (たむら・しげき)
 昭和18年5月13日生まれ、福岡県出身。昭和42年、学習院大学経済学部経済学科卒業。同年、京王帝都電鉄株式会社(平成10年7月に京王電鉄株式会社に社名変更)に入社。昭和50年に事業開拓部に配属され、その時に京王プラザホテルの南館増築を提案。昭和56年、京王プラザホテル札幌オープン前に向向、同63年に電鉄本社に総務部次長として戻り、経営企画一部部長などを務め、平成5年に京王プラザホテル取締役となる。京王プラザホテル札幌代表取締役社長、京王プラザホテル代表取締役専務(総支配人委嘱)などを歴任。平成14年6月、代表取締役社長(総支配人委嘱)に就任。京王電鉄、京王観光、京王エージェンシー、京王プラザホテル札幌の各取締役も兼職。趣味はテニスとゴルフ、そして歩くこと。

京王プラザホテルのロビーを通り抜けた。ホテルの10階に多村社長を訪ねた。
 —まず、京王プラザホテルについて教えてください。

「ホテルというのはいわばひとつの街なんでしょうね。京王プラザホテルの場合、床面積が17万㎡。客室は本館と南館併せて1450室あります。宿泊のお客様のほかに食事の方やイベントにいらっしゃる方など多くの方が集まり、特に昼時には昼食をとったり時には通り抜けられる方もおり、駅のコンコース並みの賑わいになります。ですから、ホテルを人が集まるヒューマンスペース、プラザ(広場)として位置づけ、事業を展開してきました。そしてサービス業であるホテルのもうひとつの側面が、不動産業であるという事です。ホテルは一見華やかですが、

労働集約度の高い業種なんです。当社の場合、新宿、八王子、多摩のホテルを合わせると、正社員だけで約1100人。配膳やパースタッフを加えると約2000人が働いています。また資本集約度も高く、京王プラザホテルは建てるときに200億円かかりました。さらに開業から10年後に新館の建築で同じくらいお金がかかりました。また、10年経つと内装も時代遅れになるのでリニューアルしなければなりませんし、30年経つと設備の大幅な入れ替えもしなければなりません。ですから、客室やレストラン、宴会場といったスペースをいかに効率的に稼働させるかが大切なのです」

「86%くらいです。イベントや宿泊パックなどの企画はご好評いただいていますし、海外からのお客様が多いのもホテルの特徴です。開業当初からマーケットを広げるために欧米をはじめ東南アジアにも営業をしていっています。今、欧米はもとよりアジア圏の旅行代理店さんから京王プラザホテルが入っているツアーは非常に人気が高いと評価をいただいています。また、昨年の10月に東京デイズニールゾートのグッドネイバーホテルに指定されたのも大きいですね」

「今後の展開としてはいかがですか。」
 「ホテルには世界大会で入賞するような優秀なバーテンダー、ソムリエ、日本酒好き酒師、そして和食、洋食、中華のкокクさん、パティシエなどと、豊富な人材がいます。そうした人材を売り出していきたいですね」

「人材という面では教育にも力を入れています。これまでも現場はもちろんです。さまざまな社員教育をしてきましたが、新しく京王アカデミーというのを作りまして、バックスペースに教育専用のルームを設けました。各現場の専門家が食器の持ち方や英語などさまざまな教育を実施しています。」

「教育以外では、情報連絡の徹底、意識の統一、情報の共有化を図るために毎週1回朝8時から部門長をメンバーとする早朝連絡会を開いています。ホテルは広いから、どうしてもコミュニケーション不足になりがちです。そこで早朝連絡会を開いたり、今まで別々の場所にあった営業部門の事務所も1カ所にまとめ作るなど工夫しています。」

「次は学習院時代のお話を聞かせてください。」
 「大学時代は、経済学部の仲間と牛口会という近代経済学の研究会を作って勉強しました。牛口というのは、『鶏頭』となる

PRESIDENT
 SHIGEKI TAMURA
 KEIO PLAZA HOTEL Co., Ltd.

これからの時代はグローバルに考え、ローカルに行動することが大切。



新宿校友会など校友会活動にも熱心な多村社長

も牛後となるなかれ」ということわざから、牛の口になろうという意味をこめてつけました。メンバーに阿波田さんという学部の先輩で助手だった方がいまして、お父さんも学者だったんです。そこで阿波田さんのお宅に集まってジョーン・ロビンソンという経済学者の『エコノミックス・フィロソフィー』を原書で読んだり、論語を読んだり、ずいぶん鍛えられました。この仲間では、勉強だけでなく登山に行ったり就職活動の勉強もしました」

——校友会活動も活発にされていますね。

「まず京王電鉄に入社しましたので、最初に入ったのが関東私鉄校友会です。その後京王プラザホテル札幌に転勤になったときに北海道校友会の世話人になり、名簿づくりなどをしました。北海道では、仕事などを通じて出会った成蹊・成城・武蔵・学習院の四大学の方とも四朋会（フオーユー会）という会を作ってゴルフなどを楽しみました。東京に帰ってきてか

らは、京王プラザホテル八王子の設立に携わったわけですが、4〜5年前に八王子校友会も結成され、参加しました。八王子校友会には塩野七生さんの本を読む会とか、日本酒を飲む会とか、いろいろな集まりがあるんですよ。私はテニスに興味なので、テニスの会に参加しました。また、昨年新宿校友会が再結成されました。現在世話人を務めています。ほかにホテル校友会というのがあります。毎年12月に集っています。去年はうちのホテルが会場で5〜60人集まりました。若手の集まりで志校友会というのもありまして、ほかは他のメンバーとちよつと年代の差があるけれど、そこにも顔を出しています。同じキャンパスで過ごしたと思うと、構えずにすぐにおつきあいできるところはいいですね」

——最後に、学習院について感じるのと学生へのメッセージをお願いします。

「学習院というのは、総合力があり、パランスのよい人材を育てる大学だと思えます。思い起こせば入学試験はそんなに難しくなかった。落とす試験ではなく基礎力をためす試験だから、パランスのいい学生が入学してくるのでしょうか。

学生さんへのメッセージとしては、今は最近、当社の社員にもよく言っているのですが、これからの時代はグローバルに考えてローカルに行動することが大切、ということですね」

校友会をはじめ、人との交流を大切に

する多村社長。そんな多村社長だからこそ多くの社員をまとめ、京王プラザホテルに多くのお客様が集まるのだと感じた。

訪れる方を楽しんでもらうため、ロビーでは様々な催しや展示をしている。取材した日は伊豆・相模の吊るし籠と「中西京子と狐人形猿」が催されていた



超高層ホテルの先駆けの京王プラザホテル。ホテルで教会式結婚式場を初めて持ったのもここだった



DATA BOX——株式会社 京王プラザホテル

昭和146年6月、東京都の副都心計画で再開発された西新宿にオープン。昭和47年に国際的なホテルチェーン「INTERCONTINENTAL HOTELS CORPORATION CHAIN」に加盟。昭和55年には南館も開業した。本館は47階、南館は34階の超高層ホテル。平成3年に開庁した東京都庁舎はホテルの正面に位置する。京王プラザホテル札幌（北海道札幌市）が昭和157年、京王プラザホテル多摩（東京都多摩市）が平成2年、京王プラザホテル八王子（東京都八王子市）が平成6年にそれぞれ開業した。

交通：JR新宿駅西口から徒歩5分、または都営地下鉄大江戸線都庁前駅からすぐ。

客室数：1450室（収容人員2772名）

所在地：東京都新宿区西新宿2-2-1

予約・問合せ：03-3344-0111 <http://www.keioplaza.co.jp/>

平成14年11月21日薨去

追悼 高円宮憲仁親王殿下



12月14日、桜友会のサッカー部創立50周年記念の会にもご出席の予定だった

精力的なご公務、多彩なご趣味。
日韓共催サッカーワールドカップでは
皇族としてはじめて韓国を公式訪問。



根付のコレクションを前に
楽しげなありし日の高
円宮さま（高円宮邸で）

気さくな人柄で多くのの人たちに親しまれた高円宮さまが、昨年11月21日、47歳で急逝された。昭和53年に学習院大学法学部にご卒業後カナダのクイーンズ大学に留学。帰国後は国際交流基金に勤務したが、同時に、日加協会名誉総裁をはじめ、日本サッカー協会、日本ホッケー協会、日本フエ

ンシング協会、全日本アーチェリー連盟、全日本軟式野球連盟などの各名誉総裁や日本アマチュアオーケストラ連盟総裁など数多くの公職を務められた。昨年わが国を湧かせた日韓共催のサッカーワールドカップの際は、日本の皇族としてはじめて韓国を公式訪問している。

多忙な公務のあい間に楽しまれた趣味も本格的で、ご自身で撮影された写真を一冊にまとめた写真集『素顔の瞬間』を亡くなる直前の10月に出版している。根付のコレクターとしても知られていた。ウマ年生まれ若き皇族がウマの年に天に駆け昇った。ご冥福をお祈りいたします。

高円宮憲仁親王殿下（昭53法）
昭和29年三笠宮家の3男として生まれる。昭和53年学習院大学法学部法学科卒業。卒業後56年までカナダ・キングストンのクイーンズ大学に留学。帰国後は国際交流基金に嘱託として勤務。昭和59年には鳥取久子さまと結婚して独立宮家・高円宮家を起こした。お子さまは承子さま、典子さま、詢子さまの3女が学習院に在学中。

なつかしのキャンパス再び

電線桜友会

DENSEN-OHYUKAI

古河潤之助氏の古河電気工業社長就任を祝い発足した
総勢92名の電線製造業の「電線桜友会」。

今回で第8回目を迎える会合には
大御所から若手まで、21名が集まった。



中締め挨拶で会を閉めた鈴木信太郎氏



全国に散らばるメンバーの中で、在京の方を中心に21名が集まった

電線業界

日本における電線製造会社数は400社以上といわれ、平成11年度の電線生産額は1兆4057億円で、全製造業554業種中、第38位の位置にある。

国内の銅電線生産量は昭和59年に100万tを突破して、平成3年には最高の約117万tを記録した。しかし、バブル崩壊以降の景気低迷の影響で平成11年には86万6000tにまで落ち込んだ。平成12年には再び増加に転じ88万tとなっている。日本は平成12年時点では、自由世界ではアメリカに次いで生産量第2位にいる。

近年は、マルチメディアの発展を支えられて光ファイバーケーブルの生産量が飛躍的に伸び、平成13年度は前年度比で76.7%増となっている。また、それにとまぬ、通信向けの銅電線生産量は減少してきている。

この他、主に電力の送配電に使われるアルミ電線の生産量は平成12年で6万3000tとなっている。

〔社〕日本電線工業会のホームページより

昨年12月2日(月)日本外国特派員協会(有楽町電気ビル北館20F)パーティー会場において、電線桜友会が開催されました。

当会は高等科OBの古河潤之助氏(昭29高)の古河電気工業(株)社長に就任をお祝いし、電線メーカー6社(古河電気工業、住友電気工業、フジクラ、日立電線、三菱電線工業、昭和電線電纜)及び関係会社に勤務(OBを含む)する学習院卒業生が中心となって第1回目を開催し、今回で第8回目になります。

当日は在京メンバーを中心に各社から合計21名の参加を得て、三菱電線工業(株)OBの羽佐田恭正様(昭32経)の開会挨拶に始まり、各社メンバーの近況報告、最近の経済情勢業界情報など約2時間に渡り情報交換、旧交を温めました。

1年ぶりに再会するメンバーも多く、杯が進むにつれ業界の話、また学生時代の思い出話に花が咲き、あつという間の2時間でしたが、最後に記念撮影、古河電気工業(株)OBで、(株)井上製作所特別顧問の鈴木信太郎様(昭35経)の中締め挨拶、一本締めで来年の再会を誓い合い、盛況のうちに閉会しました。

当会の会員数は現在92名(第8回電線桜友会名簿に記載)で、前記の6社と関係会社に勤務する従業員と

そのOB(参加希望者)をもってメンバーとし、各社代表の幹事1名、合計6名で幹事会を構成、代表幹事は毎年持ち回りで会の運営を行っております。

現在の活動内容は、幹事会が中心となり年1回の会合(パーティー形式で毎年12月頃開催)を開き、メンバーの懇親、情報交換の場として活用しております。

電線とは文字通り電気を導く金属線のことで、日常の生活には馴染みの薄いものですが、発電所から消費地(一般家庭)まで電気エネルギーを輸送することを役割とした電力用電線(ケーブル)から近年のプロードバンド時代を支える高速大容量の情報伝達を可能にする光ファイバーケーブルまで多岐に渡り、日常生活や産業、経済の発展に欠くことのできない、いわば社会の血管や神経に相当するものが電線です。

しかしながら電線業界を取巻く環境は厳しさを増しているのが現状で、電線桜友会の活動を通じて同じ業界に働く者同士学習院卒業生が一致団結、メンバー相互の発展と共に業界の発展へ貢献することを目的として今後の活動内容をより充実、回を重ねて参りたいと思っておりますので今後共にご支援の程宜しく願います。

文/漆原貴史(昭56管)



電線桜友会の大先輩たち



良き先輩に、良き後輩。2人揃ってニッコリと記念写真

業界の先輩方のお話は、後輩には何物にも変えがたい宝物だ



先輩方のお話をみんなしっかりと聞いています



久しぶりの再会に会話もお酒もどんどんすすむ



IT国家、日本の動脈となる電線。その重要な、電線製造の役割を担った桜友会の仲間たち。

思い出サークルめぐり〈その1〉

アメリカンフットボール部

AMERICAN-FOOTBALL-BU

創部時6名、2年目2名……。
だが、試合にも、人生にも、真摯に接した。
50年の歴史の重みは、情熱の重みでもある。



初勝利を果たした駒沢補助競技場での対甲南大定期戦（昭和43年）



50周年記念式典で挨拶をする桜友会名誉会長の飯田亮氏（昭31経）

「ある桜友会の懇親会でのこと。会のために用意された食べ物がたくさん余ってしまった。捨てるわけにもいかない。その時ちょうど、真っ黒に日焼けした選手たちが通ったんです。早速声を掛けて彼らを招きました。すると、あつという間にきれいに平らげてくれたんです。しかもその後、彼ら一人一人がその場に居合わせた全員に向かって「ありがとうございます、ご馳走様でした」と挨拶をして帰っていったのです」

去る2月15日、東京・椿山荘で開かれた「学習院大学アメリカンフットボール部創部50周年記念式典」の席上で、桜友会の亀井泓会長がこんなエピソードを披露した。ほかでもない、アメリカンフットボール部のエピソードだ。創部から今年で半世紀。学習院のアメリカンフットボールの歴史を振り返ってみよう。

学習院にアメリカンフットボール部が発足したのは昭和28年。当初は「部」ではなく「同好会」としてスタートした。部の初代会長を務めた内山寿朗氏（昭29卒）を中心に、5、6名の部員が集まった。しかし創部2年目に部員は2名に。それでも部の灯を消してはならないと、二人きりで毎日練習し、米軍の横須賀基地へ出かけて防具やユニホームを譲り受けたりした。そうした地道な努力が、50年の歴史の下にはあるのだ。

当時、監督兼コーチを務めたのはT・ブラック氏。米空軍の士官で、非常に威厳もあったという指導者の下、日々過酷な練習が繰り返された。ある元選手はこう回想している。

「ブラック氏との最初の練習の思ひ出は、脳震盪寸前の激痛です。選手を二手に分けてのタックルの練習時

でした。目から火花が飛び散ると同時に、大きな衝撃が背骨を伝わって頭のテッペンへ抜けて行きました。頭が繋がっていいよかったです、と実感した初めての経験でした」

練習を積み重ね、3年目の昭和30年、初めての対外試合に出場した。初戦の相手は日本大学。日は関東大学リーグでも強豪校で、当然選手たちの緊張も極限に達していた。とある選手は、審判に注意されるまでヘルメットを逆さに被っているのを気づかなかつたほど。残念ながら初戦は白星で飾れなかった。

翌31年、関東学生アメリカンフットボール連盟に加入。同時に、甲南大学との定期戦も始まった。だが、勝利をなかなかものにできない。歴史的な初勝利は、翌32年。成城大学を14対6で破った。

昭和43年には「部」に昇格した。そして、甲南大定期戦初勝利の栄冠を手に入れたのもこの年だった。

そして平成3年。2部リーグで全勝優勝を成し遂げるまでになった。念願の1部入替戦に出場。しかし、上智大学に敗れ、1部リーグへの切符を逃してしまった。この時の悔しさは受け継がれ、現役部員たちの原動力になっている。昨年は16年ぶりの甲南戦勝利、2部リーグ2位など、素晴らしい活躍を見せてくれた。

「ルールある戦いの中で、人間が本来持ち合わせている闘争本能を剥き出しに、勝負する相手と激しくぶつかり合う」。これがアメフトの原点だという。試合というフィールドだけでなく、社会というフィールドでも、彼らは人と「真摯」に向き合っている。ありがとう、ご馳走様でした。これがすべてを物語っている。



上/アメリカンフットボール部の部旗
右/後楽園陸橋で行われた対立教大学戦（昭和32年）
右下/熟き現役選手たち



上/椿山荘で開かれた創部50周年記念式典。右/第1回対甲南大定期戦（昭和31年）



創部50周年を迎えて

桜鋺会会長 酒井英行（昭45経）



との入れ替え戦に出場致しました。その後、学生の運動部離れで部員数の減少、3部転落等もありましたが、3年前に2部に復帰し、昨シーズンは部員数60名で、16年ぶりに甲南大学（現在関西1部移）に勝利、四大戦2位、リーグ戦2位という成績を残しました。

さて我が部は今年で創部50周年を迎えることが出来ました。去る2月15日、東京・椿山荘で来賓、桜鋺会員、現役含め400名弱の方々にお集まり頂き、賑やかに50周年の式典を執り行う事ができました。

50周年を機に現役に望む事は、上位を目指すことはもちろんですが、学習院の綿々と続く教育方針の下、フットボールを通して心身を鍛え、たくましく心豊かな人間に成長して欲しいと思います。

桜鋺会員、現役共々、力を合わせて微力ではありますが、学習院の発展の一助になるように精進致す所存でございます。皆様におかれましても、今後とも益々のご指導、ご声援をお願い申し上げます。

フットボールはメンタルな部分と格闘技が半々くらいに必要なスポーツなので、格闘技的な要素を持つスポーツが、学習院の校風の中で育つていくかどうか心配でしたが、平成に入り部員数も増え、1000名を擁するクラブに成長致しました。

平成3年には2部全勝優勝、1部

昨シーズンは16年ぶりに甲南大学に勝利した





『四月のインターラーケン』

INTERLAKEN-IN-APRIL

小野田博 (昭30化)

Hiroshi-Onoda

▼スイスの中部に位置する「インターラーケン」は、ベルン・アルプス山脈の連峰を仰ぐ世界的に名高い避暑地。雪を抱く山脈と生命力あふれる緑のコントラストが実に鮮やかに再現されている。



『N海岸の夕日』

SUNSET-OF- "N" SEASIDE

二荒芳彦 (昭31経)

Yoshihiko-Futara

▼ヨーロッパのとある海岸。初老の夫婦と飼い犬が散歩している。雄大な大海原に夕日が沈み、オレンジ色のハイライトが二人と一匹のシルエットを優しく包み込んでいる。

オブリッジ誌上特別美術展 復活！ オール学習院美術展

昨年11月に4日間限定で開かれた第4回学習院桜美会の展覧会を誌上再現。

昨年11月16日から19日の4日間、東京・新宿のギャルリートラン・デュ・モンドで

第4回学習院桜美会「合同美術展2002」が開かれた。

会場には学習院の初等科から大学、卒業生、さらには職員までの絵画を中心に陶芸や工芸など、

さまざまな作品が展示された。一時は都内の百貨店でも催されていたこの名物美術展。

創部100年を迎えた今年、学習院が育んだ香り高い文化を、いま一度、誌上で特別に再現してみた。



会場の入口にて。多くの卒業生や現役学生が来場していた



『花』
FLOWER
相良雅子 (昭44英)
Masako-Sagara

▼『花の生命は短くて』とはよく言われる言葉であるが、この作品は、純白の花々が競うようにして咲く美しき一瞬を切り取っている。キャンバスから芳しい香りが香ってきそう。



『千寿』
SENJU
渡辺伊佐保 (昭43済)
Isao-Watanabe

▼花柄の和服を身にまとう一人の淑女。口元にはうすすらと笑みを浮かべている。その視線の先には、一体何があるのだろうか。竹久夢二の美人画を髣髴させる艶やかな作品。



『蟹』
CRAB
中村直弘 (平13政)
Naohiro-Nakamura

▼砂浜でたずんでいる1匹の蟹。紫をベースにしたその幻想的な色調は、いわさきちひろの絵画のようだ。蟹の表情や姿に至るまで、ディテールが詳細に描かれている。



『六月のパルメン公園』
PARMEN-PARK-IN-JUNE
竹内敏郎 (昭33経)
Toshio-Takeuchi

▼フランクフルトの市民によって、今から約140年前に創設された「パルメン公園」。やわらかそうな芝生の広場が眼前に広がっている。洋館の前には色とりどりの花が咲く。



『モンタルチーノ村』
MONTALCINO-VILLAGE
徳川義眞 (昭32化)
Yoshisane-Tokugawa

▼ワインの聖地としてその名を知られるイタリア・トスカーナ地方のモンタルチーノ村。開放的な青空の下、細い石畳の両側にはびっしりとおとぎの国のような石の家が並び並ぶ。

櫻友クラブは、クラブ会員のために、さまざまなイベントや、
会員相互の交流がはかれる楽しい企画を考えています。
このオプリージ・クラブはそんな誌上クラブなのです。

REPORT
催事の報告

櫻友クラブ(日本の伝統文化に触れる会)平成15年2月5日/料亭 金田中

料亭の味と地唄舞を楽しむ会

地唄舞に会席料理、本物を味わった2時間

平成15年2月5日、新橋の料亭金田中
で、今年初めての櫻友クラブ主催「日本の
伝統文化に触れる会」が催された。金
田中は若女将の母上が、学習院女子部出
身という縁で会場となった。

当日は平日の昼間とあって、女性の姿
が多く見受けられた。今回は、この料亭
金田中の食事と、上方舞ともいわれる地
唄舞「雪」の観賞を楽しむのが目的。会
は予定時間12時に小山観翁氏(昭27政)
の地唄舞についての解説で始まった。話
によると、舞い手の出雲蓉氏(常磐会77
回生)はもちろん、三味線の川瀬白秋氏、
胡弓の高橋翠秋氏ともに日本の最高峰の
方々で、3名が揃って演じるのに出会う
ことは、めったにないことだという。

小山氏の話の後、出雲氏が登場し、唄
と三味線と胡弓に合わせて舞い始めた。
和傘を自在に操り、舞の動きとその傘の
動きで微妙な女性の心の動きが表現され

ていた。約20分ほど
の時間であったが、
参加した方々は舞に
見とれ、初めて地唄
舞を観賞した方も、
小山氏の解説で、そ
の内容がよくわかり
楽しむことができた
ようだ。最後はいつ
までも鳴り止まない
拍手で地唄舞の観賞
は幕を下ろした。

舞の後は、村上智
也桜友会副会長が挨拶し、再び小山氏が

「出雲さんは師匠を超えられたのではない
か」というすばらしい感想を述べられ、
歌舞伎座のイヤホンガイドを共に担当し
ている園田榮治氏(昭34政)と2人で乾
杯の音頭を取った。ここからは先ほどま
での静けさが嘘のように皆さん思い思い

に金田中の「食い切り料理」を味わいつ
つ、話に華を咲かせていた。食事も終わ
りに近づいた頃、出雲蓉氏が衣装を着替
え挨拶に出てこられると、再び、会場は
拍手の渦に包まれた。そして最後に村上
副会長が挨拶をして会はお開きとなった。



日本最高峰の舞、三味線、胡弓

甘 味	水菓子	飯	煮 物	八 寸	造 り	焼 物	前 肴	御 献 立
百合根鮎豆茶巾	茶味	穴子蒸し鮎	筋・若布煮合わせ 木の芽	海老新如・たら芽 レモン	鯛・鯛昆布 花穂・紫芽・山菜	小らんげん菜・口柚子 鶏煮寄せ・椎茸	松葉串 唐墨・大根・巻海老・胡瓜 大徳寺・黒豆・フオアグラ・火取長芋	胡麻豆腐・黒胡麻味噌
平成十五年二月五日		清仕立て・生鮓・三つ葉						
金								
田								
中								



ユーモアたっぷりにわかりやすく解説してくれた
小山観翁氏

当日、金田中で振る
舞われた献立

校友会会員の皆さん、今年もよろしくお祈りします

平成15年桜友会新年会を霞会館で開催

平成15年1月8日、東京・虎ノ門の霞会館で桜友会の新年会が開かれた。初春の桜友会最初の行事は、華やかに午後6時に開宴。

まず初めに、亀井泓桜友会長の新年に当たっての代表挨拶が。続いて来賓の方々の紹介があり、学校を代表して田島義博学習院長が挨拶をされた。その後、林友春桜友会顧問（昭9旧高）の乾杯の発声で会食、懇談は始まった。

当日の参加者は約160名で、会場は超満員となった。中でも新年ということもあり、女性の方々の美しい色鮮やかな和服姿が目立っていた。

会の途中では、校友会と現役学生との大切なパイプ役である、学習院大学から3名、学習院女子大学から2名の卒業生委員会のメンバーが登場。パイプ役であると同時に、これからの校友会の大切な戦力となっていくメンバー5人は、あちこちで先輩方に囲まれて、今の学校について質問されたり、社会人となるためのアドバイスを受けたりしていた。

そして、なごりを惜しみつつ、7時半前に中締めとなった。中締めは小野田博



あちこちから新年の挨拶の声が聞こえてきた

校友会副会長の挨拶と、草刈廣桜友会副会長の三本締めで閉められた。草刈副会長は大学野球部で活躍していた時代を彷彿とさせる、張りのある声で三本締めを行われた。

亀井桜友会会長を囲んでの1枚。女性の方は和服姿も多かった。



東京プリンスホテル鳳凰の間に約700名が集った

チャリティチェリーパーティー

桜友会の年末恒例のイベントとなっている「チャリティチェリーパーティー」が12月14日、東京プリンスホテル「鳳凰の間」で開催された。今回も亀井桜友会長をはじめ、700名もの人が参加し、華やかなパーティーになった。

17時30分の開場時にはすでに多くの人が集まり、そこかしこに談笑の輪が。約1時間ほどのクリスマス・ディナーを

楽しんだ後は、恒例のビンゴゲーム大会に突入した。今年も多くの協賛があり、宝飾品や電化製品、宿泊券など豪華賞品が目白押し。見事幸運を手にし、一足早いクリスマス・プレゼントに大満足の参加者の顔が会場のあちこちで見られた。今回のパーティーの収益金は、「全国骨髄バンク推進連絡協議会」と「校友会海外留学研修制度」に寄付された。



毎年大好評のパーティー。今年もお楽しみに

今年生誕200年のベルリオーズで盛大なる幕開け

学習院OB管弦楽団演奏会

年の瀬も押し迫った昨年12月8日の14時から、創立百周年記念会館正堂で学習院OB管弦楽団の第46回定期演奏会が開かれた。今回、指揮を務めたのは野口芳久氏。OB管弦楽団の指揮台にもたびたび登場している。

オープニングは、ベルリオーズの序曲『ローマの謝肉祭』。今年生誕200年を迎えた彼のこの作品は、10分程度の小品であるが、技術的に難しい曲。しかし、オーケストラは野口氏のタクトに見事に応え、迫力ある有機的な響きを生み出した。

続いて披露されたのは、ガーシュインの『ラブソディ・イン・ブルー』。彼の曲には、ジャズやミュージカルを髣髴させる親しみやすいメロディが随所に登場する。この日は、ピアノ・ソロに内藤佳有氏が登場。指揮者としても活躍している氏のピアノは、時にリズムカルに、時に優雅にガーシュインのメロディを奏で、聴衆を完全に魅了。終演後、惜しめない拍手が会場から贈られた。

そして、この日のメイン・プログラムへ。曲はチャイコフスキーの交響曲第5番。ロシアの永久凍土を想わせる暗く重

い導入部。そして、グイグイと突き進んでいく第4楽章。緩急自在の演奏は耳に響いて心地よく、爽快さを残しつつコンサートは終わった。

次の演奏会は、6月15日に開かれる予定。世界的な指揮者・岩城宏之氏(昭26高)を迎え、ドビュッシーや武満徹の作品が演奏される。名演を期待したい。

今回の演奏会には世界のイフキが3年ぶりに登場する



毎回デザインも凝っている告知用のポスター！

学習院OB管弦楽団
第46回定期演奏会

チャイコフスキー
交響曲第五番 木短調

指揮／野口芳久

ガーシュイン
「ラブソディ・イン・ブルー」
ピアノ：内藤佳有

ベルリオーズ
序曲「ローマの謝肉祭」

2009年
12月8日(日) 開演 13:30 開演 14:00
¥2,000 全席指定
学習院創立百周年記念会館正堂
LPO087PROM010
TEL:03-3252-4518

今年は4月13日に開催。桜の花は見られるかな？

第17回オール学習院の集い

もうすっかりおなじみとなった学習院の春の一大行事「オール学習院の集い」。17回目となる今年は、4月13日の午前10時から学習院大学構内で開催される。

学習院の幼稚園から卒業生までが一堂に会するビッグイベントには、毎年学習院の関係者だけでなく、近隣の人々をはじめ多くの人が訪れる。それは目白キャンパスが隠れた桜の名所であるから。

特に百周年記念会館前の桜並木は美しく、フォトスポットとなっている。

今年も開会式が百周年記念会館で行われた後、オール学習院大合同演奏会や豪華賞品が当たるチャリティラッフル(福引き)、各種緑日や運動部の親善試合が開かれる予定。

去年は葉桜だったが、今年は満開の桜が楽しめるか。今から待ち遠しい。



櫻友クラブの引き当り酒会は毎年大好評！

清水幾太郎との「宝物のような日々」に一同、興味津々

2月の月例会「学習院大学と清水幾太郎の時代」

毎月第2木曜日(1、8、12月を除く)に、東京・虎ノ門の霞会館で開かれる校友会月例会。各分野で活躍している卒業生をゲスト・スピーカーに迎え、幅広い話題が盛り込まれたスピーチと質疑応答、同窓生との歓談などが行われ、毎回充実した講演会となっている。

2月13日の第132回月例会では、民間の国際文化交流事業を展開するマツモト・インターナショナル・ハウス代表の松本晃氏(昭36政)が講演した。演題は「学習院大学と清水幾太郎の時代」。清水先生のゼミの教え子でもあった松本氏が、著書『清水幾太郎の「20世紀検証の旅」』を題材に、清水先生の晩年の海外旅行に同行した計6回130日間にわたる「宝物のような日々」を語った。社会学者としての人物像とともに、先生の素顔をのぞかせるようなエピソードが笑いを誘った。

今回は、4月10日にボサノバギター奏者の木村純氏(昭49法)を招いて開催される予定。午後6時から、会費は4000円(軽食・飲み物付き)。問合せは校友会事務局(☎03・3988・3288)まで。受け付けは当日会場にて。

会の後半は、先立ち講師を紹介する校友会の高澤常務理事(下)講演後、講師の松本晃氏を囲んで記念撮影



左/会に先立ち講師を紹介する校友会の高澤常務理事(下)講演後、講師の松本晃氏を囲んで記念撮影



学習院目白キャンパスが続々リニューアル

新教室棟「西2号館」が完成

学習院目白キャンパス内が急激に変貌を遂げている。平成13年着工された新教室棟「西2号館」がこのたび完成。先日行われた入学試験では、早速試験会場として利用された。

地上5階、地下2階の西2号館は、西1号館や部室棟の黎明会館、富士見会館と渡り廊下でつながれ、移動が便利に。館内には100人が収容できる「模擬法廷教

室」が設けられ、模擬裁判などの授業も行えるようになった。また、地下2階にはインストラクター常駐のトレーニングルームも新設。体育や課外授業をはじめ、一般学生も無料で利用できるという。西門のすぐそばにあった保健室も、地下1階に移動した。

一方、正門もリニューアル。赤レンガに白木の美しい扉がついた。



4月から利用が開始される西2号館

列島通信北から南から

関西桜友会

KANSAI-OHYUKAI

今年5月で創立42周年。
 “学習院は一つでなくては”との
 OBの熱い思いが大きな力となり
 全国でも有数の一大桜友会に。



関西桜友会会長
稲山 清
 (昭27政)



昨年1月24日に大阪のウ
 エスティンホテルで開か
 れた関西桜友会の新年会

関西桜友会は、近畿二府四県に在住する学習院OBの旧制・新制(学習院関西大同窓会)の両組織を合体して、昭和36年5月に新しく再出発をした地方支部組織であります。それまでに至る経緯にはそれなりに色々なことがありましたが、その設立に当たっては、亡くなられた弘世現(大14旧高)先輩のご理解とご支援を忘れることはできません。

昭和34年頃、ふわふわとした絨毯の日本生命の社長室に弘世社長をお訪ねし、学習院は一つでなくては、という新旧両組織合併の年来の意見を具申、というよりお願いに対して、深いご理解と力強いご支援の言葉を頂戴し、念願が叶ってまさに欣喜雀躍の思いで辞去させていただきました。事が、今なお心に浮かびます。

弘世大先輩のご指示もあり、宮地襄二(昭12旧高)会長、稲山清(昭27政)世話人、並びに幹事の執行部体制で昭和36年5月、関西桜友会は設立・新発足いたしました。それに至るまでの歴史をもつ古い支部組織であります。

常磐会関西支部とも仲良く連係を保ちつつ、爾来さまざまな活動を重ね、その間の歴代幹事諸父兄姉、並びに会員の皆様のご支援とご協力のおかげをもちまして、年々発展して参りました。当初は300名程度であった会員数も、現在では名簿上の会員総数は2178名となっております。

人数も増えて、経費の関係より毎回の各種行事のご案内等の連絡は、やむを得ず7、10年目に発行する関西桜友会の会員名簿の送付時に、賛助会費5000円、ご寄付を含む特別賛助会費1万円以上のお振込みを

いただいた会員に差し上げる仕組みになっております。

今年平成15年夏には、新しく関西桜友会の会員名簿を発行し、名簿上の全会員の皆様に送付させていただきますので、その際にはよろしくご協賛のほど、特に未登録の会員の皆様にはこの機会にぜひご協賛いただき、賛助会員の登録をいただけてますようお願い申し上げます。

なお、特別賛助会員並びに賛助会員には、その慶事・弔辞に際しまして慶弔規定に基づいて慶弔費を贈らせていただいております。

会の今後ますますの発展のためには、何と申しましても若い会員の皆さんの積極的なご参加が望まれます。是非、関西桜友会の集まりにお顔をお見せください。

学習院OBは多士済済です。先輩後輩の垣根を越えて、新しい交流の輪を広げてください。会員諸父兄姉の益々のご活躍、そして何よりもご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



旅行会のひとこま。このときは池坊で立花の実演が行われた

文/稲山 清 (昭27政)

1年の活動ごよみ

★新年会・総会・評議員会

年1回(1月の第4木曜)開催。会場は近年は、JF大阪駅から徒歩約10分の「ウェスティンホテル大阪」。

★二木会

毎月第2木曜(1・8月は休み)開催。OB講師の講話と懇親会(懇親会は参加費3000円)。会場はJF大阪駅から徒歩約5分の「ガーデンシテイクラブ大阪」。

★旅行会

年1回、春または秋に近畿圏日帰りの旅を実施。

★ゴルフ会

年1〜2回開催。会場は兵庫県東条町の「タイガースゴルフクラブ」。

★美術館巡り

年1回開催。近畿圏の美術館を日帰りで巡る。

【問合せ】

●新年会等/益田英之(昭38化) ☎0726・94・5990、葉室頼廣(昭56管) ☎0797・23・0386

●二木会/鈴木 喬(昭37済) ☎0727・93・4892

●ゴルフ会/井上篤太郎(昭35政) ☎06・6852・1994




写真上/昨年11月の旅行会。京都の龍興寺にて
写真右下/二木会での懇親会風景
写真左下/二木会の講話。写真は今年2月の会で
講師は中嶋政子氏(昭45哲)

強力わかもとのおつくり方



椎名 令恵

 わかもと製薬
www.wakamoto-pharm.co.jp



医薬品

栄養豊富な胚芽を母に、「強力わかもと」は育ちます。

①米や麦の胚芽に、こうじ菌(アスペルギルス・オリゼーNK菌)を植えつくと、胚芽の栄養でこうじ菌が増殖、同時に脂肪やたんぱく質、でんぷんの消化を助ける消化酵素が産生されます。②胚芽に植えつけられた乳酸菌も増殖、より元気な乳酸菌に育ちます。③更にビタミンを補強したビール酵母を加えて錠剤にしたのが「強力わかもと」です。◎錠剤の中で眠る菌は、服用後体内で目覚めて活動します。

3つの天然成分が、効く!

- ① 消化酵素が、胃に!
- ② 乳酸菌が、腸に!
- ③ ビール酵母が、栄養補給に!

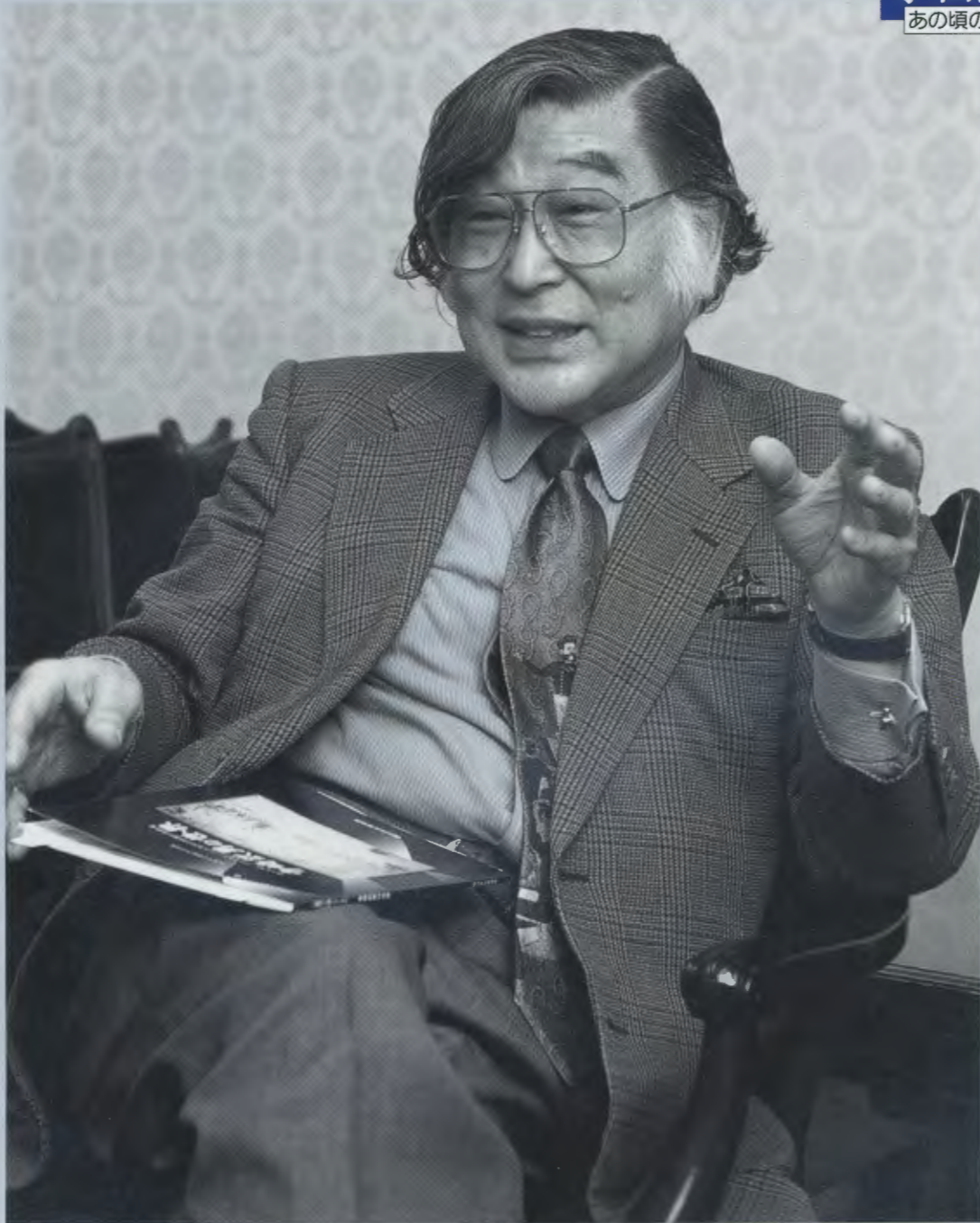
《主な効能・効果》 ●胃もたれ、食欲不振、消化不良、食べ過ぎ。 ●整腸(便通を整える)、便秘、軟便。 ●滋養強壮、肉体疲労・病中病後・産前産後などの場合の栄養補給。 ○ピン入り(300錠・1000錠) ○携帯用(9錠パック×16) ○使用上の注意を読んで正しく服用して下さい。

お客様相談室 03-3279-1221(直通)

受付時間 月～金 9:00～17:30(祝日を除く)

*1は発酵技術。*2は天然成分の力。

※1 つくり方の違いが、効き目の違い。 ※2



三島芝居の演出助手から近代能楽集「弱法師」の初演出も務めた寺崎氏。「三島由紀夫さんにはお芝居のことより、生き方を教わりました」

寺崎裕則

演出家・(財)日本オペレッタ協会会長
(昭31済)

(財)日本オペレッタ協会の会長として、日本におけるオペレッタの普及から新歌舞伎の演出まで、さらには海外での活動など、グローバルな活躍をする寺崎裕則氏。氏の今日の活躍につながる演劇との出会いは、学習院の演劇部にあった。世界に通じる演出への若々しい情熱とその原動力を、学習院での思い出を交えて語っていただいた。

Hironori Terasaki

若い人にも自分の力を信じ、仲間を信じて持てる才能を發揮し、明日への希望を拓いていってほしいです。

曰

本オペレッタ協会会長として、オペレッタの制作・台本・演出から、歌役者の育成、オペレッタの普及まで幅広く活躍し、また一方で新歌舞伎の演出家としても歌舞伎座で数々の舞台を創り上げている寺崎裕則さん。演劇との本格的な出会いは学習院大学の演劇部だったそうですが。

「千葉県館山の高校から学習院の経済学部に入学したのですが、戦災に遭う前は赤坂の東宮御所のすぐ近くに住まいがあり、洋画家だった父・武男が明治天皇の肖像画「軍人勅諭下賜の図」等を宮中で描いていたので、学習院は近しく感じていました。父は明治40年にヨーロッパへ行き、フレスコ画、テンペラ画などさまざまな手法を学び、東西絵画の融合と、永遠に残る作品を法隆寺輪堂等に描きました。歌舞伎が大好きな祖母の影響で高校では演劇部にいましたが、学習院の演劇部に入ってみると、文芸部には4年生に吉村昭さん、短大2年生に津村節子さんがいらして、本格的な演劇の世界に足を踏み入れたのです。お二人とは、今も仕事も含め、親しくお付き合いいただいています」

卒業後は文学座にお入りになったんですね。「卒業した昭和31年にはあいにく文学座の募集がなく、銀行に就職、2年の間、仕事をなるべく早く終わらせては芝居の勉強、歌や踊りまで学びました。銀行の仕事は私の資質と

は正反対のものでしたので、考え抜いて、やっぱり自分は演劇の世界で本物になりたい。演出こそ天職と思つて文学座に入りました」

そこで三島由紀夫氏と出会ったわけですね。「三島演劇の演出助手や「弱法師」を初演出しました。学習院には先輩が後輩をとてかわいがる校風がありますが、三島さんには色々なことを教わりました。芝居のことよりも人間学を、三島さんの生き方を通して学びました。同時に昭和35年から松竹の永山武臣会長の下、宇野信夫先生の演出助手として歌舞伎もやるようになりました。そうしてようやく一本立ちできるようになった頃、三島さんのあの事件が起こったのです」

その時点ではまだ、オペレッタはやってなかったんですね。

「昭和47年、旧東独で演出家のW・フェルゼンシュタイン先生に出会いました。彼の演出するオッフエンバックの『青ひげ』の幕が上がった瞬間、僕の理想の演出がココにあると確信しました。音楽と演劇の持つインパクトが一体となつて描き出すムジークテアター——人間の音楽劇の凄さに圧倒されたのです。オッフエンバックは、オペレッタの創始者です。そのオペレッタは古典なのに、昨日、出来たように新鮮なのです。それは、人間の本来の姿を描き出しているからです。原作を読み込んでいけば、人間の本質にたどり着く。

赤坂プリンスホテルの櫻友クラブラウンジにて。表情が豊かで、笑みが絶えない。一挙手一投足がどこまでも格調高く、しかも親しみを感じる。オペレッタの世界を体現しているかのようであった。



赤坂プリンスホテルの櫻友クラブラウンジにて。表情が豊かで、笑みが絶えない。一挙手一投足がどこまでも格調高く、しかも親しみを感じる。オペレッタの世界を体現しているかのようであった。



寺崎裕則 (てらさき・ひろのり)

昭和8年、東京・赤坂に生まれる。昭和31年に学習院大学経済学部経済学科を卒業。同年、東京都民銀行入行。昭和34年文学座演出部に入座。三島由紀夫とともにNLT、浪漫劇場を創設、三島演劇を上演。三島氏の死去により解散。その後、劇作家宇野信夫に師事、昭和36年より新歌舞伎の演出に携わる。昭和49年からベルリン・コミッシュオーバーで演出家ヴァルター・フェルゼンシュタインに師事、氏の死により最後の弟子となる。昭和52年、日本オペレッタ協会を設立。平成5年、オペレッタ普及の功により、ウィーン州並びにウィーン市より「金の栄誉勲章」を授与される。現在、松竹演劇部嘱託、新国立劇場評議員。新歌舞伎、オペラ、オペレッタを演出する傍ら「フェルゼンシュタインの芸術-オペラ・オペレッタの本質」(音楽之友社)、など、オペラ、オペレッタに関する著作や歌舞伎の評論、エッセイ等を執筆。

それを演出家が舞台に創り上げて、今の時代のものにするのです。帰国後、朝日新聞の文化欄に『フェルゼンシュタイン演出の創造方法には、伝統芸術である歌舞伎を同時代の演劇にする大きな示唆がある』と書きました。すると、フェルゼンシュタインは『地球の裏側の日本で、こんなに自分を理解している人がいる』と喜んで、来るようにと言ってくれたんです。どうしても彼の元で勉強したいという願いが叶ったのです。人間、思っただけで、思っているのと、きつと実現するものですね。幸運にも、彼が亡くなるまで1年半にわたって、彼の演出を学びました」

日本の歌舞伎と同じ、人間の本当の姿、本質を描いたものが古典ということですが、オペレッタの魅力はどこにあるのでしょうか。

「それは、オペレッタが知的大衆娯楽であることです。演劇や歌、踊りとさまざまな要素が入ってきます。だから、楽しいのです。セリフは自然な言葉で話し、役者としての演技力も求められる。踊りも踊らなければならぬし、もちろん歌い手ですから声楽の力を磨く歌役者でなければなりません。大変高度なものも求められているのですが、話の筋はいつもハッピーエンド。楽しく面白くて深く、元気が出る、知的な大人の本物の芸術でもあるのです。これを日本でも楽しんでもらおうと、昭和52年に日本オペレッタ協会を設立してオペレッタの創造と普及を始めました。それに当たっては、学習院での友人、先輩、後輩の大きな協力がありました」

昨年、日本オペレッタ協会は25周年を迎えられたそうですね。

「はい、9月にハンガリーの三大都市でレハールの『微笑みの国』の公演をし、帰国後の10月、東京公演では、天皇后両陛下にご臨席賜り、素晴らしい記念の年になりました。

初めの20年で20本のオペレッタの演目を日本初演しましたが、それ以降は、それを磨き上げる段階に入っていると考えています。そうしてようやく、我々のオペレッタが世界に通じるものになったと感じています。この25年間、私はオペレッタと歌舞伎の二筋道を歩んでいますが、それで強く思うことは、この国ならではの文化の顔をもったオペレッタを創り上げ、それを日本から発信することによって東西の文化を融合させ、本当の意味での文化交流をしていきたいということです。気付いてみると、父が絵画で目指した道を、私も歩んでいたのです」

寺崎さんの活動には、学習院時代の仲間や先輩も深く関わっていたようですが、これからの学習院に望むことはなんでしょうか。

「私は他の大学で比較文化論や演劇論を教えていきましたが、今の若い人たちは、特に男性は元気がないですね。今、日本は大きく変わろうとしています。20世紀は破壊の時代だったといわれますが、21世紀は平和を築き今一度文化の蓄積を重ね、爛熟させていく時代になければなりません。そういう時にこそ、大人の豊かな心をもってお互いをわかり合わなければなりません。豊かな心は、本物を見て感動することで養われていくものです。オペレッタは、あらゆる大人の知恵を駆使してハッピーエンドに向かっていくストーリーです。私はそれを、舞台芸術という形でこれからも表現していきたいと思っています。学習院には、大らかにそれぞれの個性を認め合う校風があります。それでいて、どこかでみんなつながっていて、集まったり助け合ったりする伝統があります。若い人にも自分の力を信じ、仲間を信じて持てる才能を発揮し、明日への希望を拓いていってほしいですね」

寺崎裕則さんのこと

島村宜伸

元文部・農林水産大臣
財日本オペレッタ協会理事

私達は昭和27年入学の同期生だが、彼は経済学科で演劇部、私は政治学科で野球部と全くの畑違い、在学中は殆ど話をしたこともなかった。彼の交流は昭和58年、私が農林水産政務次官在任中に、共通の友人から、寺崎さんがオペレッタの演出で頑張っているから激励に行こうと声がかかり、音楽の友ホールに出かけて以来である。そこでは確かにオペレッタらしきものが演じられていたが、私はその前年に本場ウィーンで世界最高峰のフォルクス・オーパー演ずる「メリー・ワイドウ」を観たばかりで、未だその感激を忘れられずにいた。終了後、寺崎さんに感想を求められたので、思わず「日本でオペレッタを成功させる気なら全ての面で思い切ったグレードアップが必要。学会会の延長ではダメだ」とつい本音を言ってしまった。厳しい条件の中で苦勞している友人に、ズブの素人が心ないことを言ってしまったと反省したが彼の祭りは、彼は笑顔のまま「確かにそうだね」と答えたが、おそらく心の強い彼のことだから「今に見ておれ!」と心中思いつつのことであつたと思ふ。

寺崎オペレッタはその後、着々と地歩を固め、昨年9月には、日本語版「微笑みの国」を引つ提げて、オペレッタの盛んなハンガリーに遠征して大成功を収め、日本のテラサリの名を不動のものとし、さらに、その帰朝公演には、天皇后両陛下がご臨席されるといふ、わが国初の天覧オペレッタを実現。20年前には想像だにできなかった見事な成果を生んだ。加うるに、3年前、一昨年と歌舞伎座で大好評を博し、この3月には京都南座で「源氏物語」(瀬戸内寂庵作・市川新之助主演)の演出等々、今日の彼の成功は、持って生まれた才能と不撓不屈の芸術家魂によるもので、お互い活躍の場こそ異なるが、実に見てたい友人だと内心深く敬意を表している次第である。

あえて一言、付言すれば、彼には友紀子さんという素晴らしい奥方がおり、時には厳しい台所事情もあったに違いないが、ただひたすら彼を支え続け二人で今日を築いた。寺崎夫妻の更なる飛躍を期待して止まない。



明治42年に東宮御所として建造されたネオ・バロック様式の迎賓館

四谷

学習院初等科のあるここ四谷は、一見、オフィス街のイメージが強いが、道を一本入れば、江戸の雰囲気をおかしこに残す“昔町”。そんな町を少しだけ寄り道をしながら、ブラブラと歩き回ってみませんか。きっともうひとつの四谷がみえてきます。

訪ねた人●五十嵐匡一（平10史）



迎賓館前の若葉東公園

学習院初等科の周辺は 意外なほど空が広がった。



外堀通りから迎賓館方面を望む。
この辺りは大きく空が開けている

学習院と四谷の縁は明治17年にまで遡る。当時、神田錦町にあった学習院から華族女学校（学習院女子部の前身）が分かれ四谷区四谷仲町（尾張町）に移転した時に始まる。場所は今の初等科とほぼ同じ場所だった。そこから華族女学校はさらに麴町区永田町へ移転し、今度はそこへ学習院が明治23年9月に移転した。

それ以来、初等科は一時の疎開や新築工事のための仮移転などを除いて、現在の場所にある。

四ツ谷駅の市ヶ谷よりの出口を出ると目の前に大きな石垣がある。これが、寛永13年（1636）に長州藩主毛利長門守秀就が造った四谷見附の石垣だ。見附とは、江戸城から堀を越えて城外に出るところにある城門のことで、江戸には36の見附があった。四谷見附はその中でも五街道のひとつ、甲州街道が通っていたため重要なものだった。見附では道がコの字型に曲げられ真つ直ぐに進むことができません、ここ四谷もその形になっていて、今の新宿通りは大正2年に新しい四谷見附橋が完成するまでは直行することができなかつた。また、ここには城門もあつたが、明治5年に撤去されている。

この四谷見附橋は赤坂離宮（現在の迎賓館）などとの調和を考え、ネオ・バロック様式で建設された。現在の橋は平成3年に架け替えられたものだが、当時の名残を欄干や青銅製のランプ台などに残している。

その迎賓館は初等科の目の前にある。迎賓館から赤坂御用地にかけては、大半が紀州徳川家の江戸屋敷だった。この場所に紀州徳川家が移ってきたのは明暦の大火（1657）の後のこと。当初城内



四ッ谷駅前にある四谷見附跡の石垣。
また、立派にその姿を留めている

キャンパスタウン探訪

YOTSUYA

ネオ・バロック様式を取り入れた四谷見附橋の青銅製ランプ台



学習院初等科の正門、みんなこの門をくぐって通っていました



散策の途中で見つけた井戸。



四谷見附橋から半蔵門方面を望む

どこの神社の参道かと思えば、外堀沿いの遊歩道でした

にあった屋敷を、防火防災対策のために城外に移したのだという。今は迎賓館前の美しい景観を演出している若葉東公園も、その時に造られた火除地のひとつだった。

この迎賓館周辺と対照的な町が、初等科の西側一帯だ。多くの寺が集出し、地形も台地が複雑に入り組んでおり、坂が多く町歩きにはそれなりの覚悟が必要だ。昔ながらの道が数多く残っており、あちこちに車の通ることのできない路地や階段もある。このそれぞれの坂には、江戸時代、鉄砲組屋敷や鉄砲鍛冶場などがあつた鉄砲坂、坂の途中にある寺に因んだ東福院坂、近くの真成院の潮踏観音に由来する観音坂など、どれも謂れのある名前がついている。

この坂のある町にある多くの寺院は、寛永11年（1634）以降、江戸城の拡張に伴って、郭内にあつたものが移ってきたものである。西念寺もそうした寺の一つで、外堀新設のため麴町清水谷から現在地に移転してきたという。この寺には、服部半蔵と徳川家康の息子信康の供養塔がある。半蔵は、信康が織田信長に命じられて切腹した後、仏門に入り信康の菩提を弔った。このあたりの若葉2丁目と、初等科から新宿通りを挟んだ、現在三栄町となっている地域は昔、それぞれ南伊賀町、北伊賀町と呼ばれ、忍者が住む町だった。新宿区歴史博物館建設時には忍者屋敷跡が出てきたという。

四谷はこのように江戸以来の歴史を積み重ねてきた町。そして学習院の歴史を長く見守り続けてきた町だ。

第5回

中等科・高等科桜友会

前駐米大使 柳井俊二氏を迎えて



超満員の会場で講演をする柳井俊二氏



柳井氏の講演で部屋に入りきれず、廊下にもイスを出して聞く方も多くいた



古屋新会長から小野田前会長に花束が贈呈された

中等科・高等科桜友会発足から4年半。ひとつの節目を迎えることになった。今回の第5回中高桜友会。新会長を迎えて、さらなる一歩を踏み出すことになった。



左から小野田前中高桜友会長、古屋新中高桜友会長、亀井桜友会長、永田学習院大学長、廣永新中高桜友会副会長



本日の主役、柳井俊二氏を囲んでの同級生の輪



新中等科・高等科桜友会会長に就任された古屋勝彦氏

新会長に古屋勝彦氏が就任 今回も話題盛り沢山の 中等科・高等科桜友会



「ナゴチン」こと名越茂夫先生を囲んで



先日、退任された従野明宏前中等科高等科科長も会場に



指揮者福田一雄氏の顔も見えた



若手の出席率が高いのも中高桜友会の特徴



いつまでも先輩は先輩、後輩は後輩です



千葉糺中等科・高等科科長とバチリ

平成15年2月22日、午後4時、定刻通りに第5回中等科・高等科桜友会総会が始まった。初めに中高桜友会の小野田博会長（昭30化）から挨拶があった。その中で小野田会長は、中等科・高等科桜友会発足時から約4年半務めてきた会長職を任期終了で退任することを発表した。同時に次期会長を古屋勝彦氏（昭35経）にお願いすることも発表され、新会長は出席者の拍手により信任された。この後、会計報告を挟み、古屋新会長から小野田前会長と、やはりこの度退任した草刈廣副会長（昭31政）へ花束の贈呈があった。そして、古屋新会長から、小野田前会長の後を継ぎ、さらに充実した中高桜友会にしていきたいとの話があった。この後、他の新役員が承認され総会は終了した。

次に同じ場所で前駐米大使で中央大学教授の柳井俊二氏の講演が始まった。ところどころに笑いを交えた興味深い話で、出席者は皆、一生懸命聞き入っていた（講演内容は42ページ）。

講演後は場所を1階食堂に移して懇親会が開かれた。

亀井泓桜友会長の挨拶でスタートし、千葉糺中等科・高等科科長の挨拶、来賓紹介と続き、野村豊弘学習院常務理事の乾杯によって懇親会が始まった。すぐに、あちこちで新旧の先生方を囲んで談笑が始まった。

午後7時10分、草刈氏から中締め挨拶と中高桜友会副会長退任の御礼があり、三本締めで会は閉められた。

第5回中等科・高等科桜友会講演会

日本人とアメリカ人

今年と来年は日米関係にとって記念すべき年となります。今年はいよいよ浦賀に來航して150年、来年は日米親善条約締結150年です。そこで、今回は日本人とアメリカ人の相違点、共通点について、外交官生活41年、アメリカ勤務3回の経験から見えてきたものを、独断と偏見に基いてお話しします。

まず相違点の1点目はスピーチの方法です。日本人はまず「多くの先輩方を前にして、私のような……」のように言い訳から始めます。アメリカ人はいきなりジョークから始めます。アメリカ人自身も少々ネタに困っているようですが、私たちのように厳しい交渉をしている時は、このジョークが潤滑油の役割を果たしてくれて助かります。しかし、アメリカの友人の葬儀に出た時に、遺族のスピーチにもジョークが入っていて笑っていたのか、いけないのか困りました。

次にアメリカ人は言いたいことはすべて言います。日本人は「あまりしゃべっちゃいかん、程々が良い」と教わってきましたが、国際社会ではそれでは通用しないんです。以前、大平元首相が「あ・うん」の呼吸」という言葉を使いましたが、これを通訳は「テレビシー」と訳していました。そして、日本人はお互いの立場を考えて全体の和を作り出しますが、アメリカ人は徹底的にディベートし、互いの立場を調整します。日本的なやり方はアメリカ人に誤解を与える危険があります。

人に何か頼まれたら、とにかく何でもノーと答えなさい」と教わったそうです。考えたり、あいまいな返事をしたら後が大変です。アメリカ大使をしていた時、全然知らない人から「高校の同窓会に使うから大使公邸を貸して欲しい」という手紙が来たことすらあります。当然断りましたが。

次にアメリカが多民族国家であるのに対して、日本は単一民族国家ということが挙げられます。本当は日本は違うのですが、あくまで比較の問題とすれば概ね間違っていないのではないのでしょうか。アメリカは多民族国家であるお陰で、何か重大事が起きると、様々な人々が、様々な情報やアイデアを持ってきます。



柳井俊二 (昭31高)

昭和12年1月15日、東京に生まれる。昭和31年学習院高等科卒業。昭和36年東京大学法学部卒業。同年外務省入省。フランスのストラスブール大学留学後、在フランス日本大使館勤務。条約局長、PKO事務局次官、総合外交政策局長、外務審議官などを歴任後、平成9年外務事務次官、同11年駐米大使。平成14年4月より現職の中央大学法学部教授。

ますが、日本は寄付免税がほとんど認められないため寄付は盛んではありません。日本の税制は寄付しやすいように、もつと変えていく必要があると思います。そうすれば死に金が生きてきます。

他にもアメリカ人は失敗を恐れないとか、アメリカは訴訟社会だとか、日本の減点社会に対してアメリカは加点社会などの相違点があります。

今度は日本とアメリカの共通点です。何よりも基本的な人権、自由、価値観は日米で共有していると思います。時々アメリカ人で、マッカーサーが日本にそれらを教えたという人がいますが、これは違います。大正デモクラシーの時代、あるいは明治時代からその芽生えはありました。

他に、好奇心の強さ、働き者、手作業を大切に、信用に基いた人間関係、正義感、口先ではなくその中身を大切に、文化を大切に、なども似ています。そして平等な社会というのにも共通しています。日本は世界で最も成功した「共産社会」だと思いますし、アメリカは「機会平等」の社会です。外国語ベタも共通点ですが、アメリカ人は英語を話すのでその点、少し有利です。

昨年、私は41年間の外交官生活を終えました。そこで感じたことは、日本の良いところを活かしながら国際社会に通用する人材がもっと必要だということです。そのためには受験勉強にとらわれることのない、学習院のような一貫教育をする学校の必要性が高まってきました。若い頃には海外留学や、ちょっとした寄り道などを体験することも必要です。学習院には、日本、世界のために必要な人材を生み出していたいだきたいと思っています。



天皇皇后両陛下、学習院へ初の行幸啓

学習院創立 125周年記念式典

平成14年12月13日、学習院創立百周年記念会館正堂にて

明治10年、学習院の開業式が挙行されてから125年のこの日、
天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、記念式典が盛大に行われた。

明治、大正、昭和、平成と4つの時代を乗り越えてきた
学習院の記念すべき日の誌上レポート。

天皇陛下のおことば

学習院創立百二十五周年に当たり、この記念式典に臨むことを喜ばしく思います。

本院の前身である学習院が、公家の学習所として京都で開講されたのは弘化四年、今から百五十五年前のことになります。これは後に廃され、華族の教育を目指した学校として、明治十年東京に、新たに学習院が創立されました。以来今日まで百二十五年になりますが、後の五十五年間は私立学校として、広く国民の教育に携わってきました。ここに、学習院の長い歴史を通じ、それぞれの時代の教育に力を尽くされた院長始め諸先生に対し深く敬意を表します。

学習院初等科に私が入学したのは、昭和十五年のことですが、当時、竣工なった真新しい校舎で「サイト サイト サクラガ サイト」と先生が教科書を読まれた光景は、今も目に浮かびます。私が在学していた戦中戦後の時期学習院にとって極めて厳しい時期でありましたが、それを乗り越えて、昭和二

十四年には大学も設立されました。私立学校としての今日の学習院を築かれた院長、諸先生を始めとする関係者の御苦勞には計り知れないものがあつたと察しております。

国の発展を進め、社会の安定や人々の幸福をもたらすために、教育が果たす役割は極めて重要であります。明治時代の我が国の発展は、明治五年の学制の発布にも表れているように、その初期から、政府が地方を含め、全国民の教育に対し非常な努力を払ったことに負うところが大きかったと思います。今後、我が国が自国の安寧を保ちつつ、世界の平和と人類の福祉に更に貢献していくために、学習院から国の内外において様々な分野で活躍する多くの人々が送り出されていくことを期待しております。

この機会に、関係者一同が本院の歴史を振り返り、将来に向かって、教育に、また研究に、一層力を尽くされるよう望んでやみません。

学習院は、明治10年（1877）明治天皇よりその名が下賜され開業式を行って以来、平成14年（2002）が125周年となる。

これを祝う記念式典が、平成14年12月13日、学習院創立百周年記念会館正堂で開催された式典には、天皇皇后両陛下が学習院に初めて行幸啓されたほか、紀宮清子内親王殿下、寛仁親王同妃両殿下もお成りになった。

式は午後2時、田島義博院長が両陛下に始式を言上して始まった。君が代斉唱の後、田島院長の式辞があり、院長は学習院創立以来の皇室との関わりを振り返り、また改めて「世界平和と人類の幸福のために奉仕する人材の育成に邁進する事を誓約」した。

その後、天皇陛下からのおことばがあつた。天皇陛下に引き続き、遠山敦子文部科学大臣、奥島孝康全私学連合代表、亀井泓桜友会長、早川浩父母会長からそれぞれ祝辞があつた。祝辞の後、学習院院歌が斉唱され、再び田島院長から両陛下へ終式を言上し、式典の第一部は終了した。

第二部は午後3時から寛仁親王妃信子殿下のご臨席のもと、雅楽が奏された。今回の雅楽は宮内庁楽師と民間の優秀な楽師を加えて結成された東京楽所と、宮内庁楽師の若手が中心となって設立された十二音会の合同で行われた。その雅楽演奏は「志越調音取」に始まり「賀殿急」、「朗詠嘉辰」、「胡飲酒破」と4曲演奏され、引き続き舞楽「陵王」、「落躰」が舞われた。ゆるやかな雅楽独特の旋律と、完成された舞の力強さに出席者は皆、目と耳を奪われていた。

午後4時15分、雅楽が終了し学習院創立125周年記念式典は幕を下ろした。

125年の歴史の重みを感じ 新しい歴史の幕開けとなる、 学習院の記念すべき1日。



紀宮清子内親王殿下



寛仁親王妃信子殿下



寛仁親王殿下



百周年記念会館前にお滞りになった天皇皇后両陛下



第二部の雅楽の開始を待つつろいだ客席風景



上/美しい旋律を奏でる雅楽奏者たち。左/力強い舞に惹き込まれる



すばらしい演奏で式典を盛り上げたオーケストラ



学習院創立125周年記念式典

左から田島義博学習院長、島津久厚前学習院長、永田良昭学習院大学長、早川東三学習院女子大学長



天皇皇后両陛下のご臨席のもと、百周年記念会館に学習院歌が鳴り響いた



早川 浩
父母会長



亀井 泓
桜友会長



奥島 孝康
全私学連合代表



遠山 敦子
文部科学大臣



田島 義博
学習院長

学習院125年の沿革

弘化4年(1847)3月 京都御所日ノ御門前に学習院開講
 嘉永2年(1849)4月 「学習院」の勅額が下賜される
 明治元年(1868)4月 京都学習院が大学寮代と改められる
 10年(1877)10月 明治天皇皇后両陛下の臨席の下、神田錦町で開業式挙。改めて「学習院」の勅額が下賜される
 17年(1884)4月 宮内省所管の官立学校となる
 18年(1885)9月 華族女学校を四谷区尾張町に創設
 39年(1906)4月 華族女学校を学習院と併合し、学習院女子部とする
 昭和3年(1928)10月 学習院開校50周年記念式を挙。行
 10年(1935)11月 女子学習院開校50周年記念式を挙。行
 22年(1947)3月 学習院・女子学習院に関する官制が廃止される

22年(1947)4月 財団法人学習院に改組され、学習院・女子学習院が統合される。新制中等科・女子中等科を開設。初等科は男女共学を実施
 23年(1948)4月 新制高等科・女子高等科を開設
 24年(1949)4月 新制大学を開設(文政学部:文学科・哲学科・政治学科、理学部:物理学科・化学科)
 25年(1950)4月 短期大学部を設置(文学科)
 26年(1951)3月 学校法人学習院に改組
 38年(1963)4月 幼稚園を設置
 38年(1963)10月 学習院創立85周年記念式典を挙。行
 53年(1978)10月 学習院創立100周年記念式典を挙。行
 平成10年(1998)4月 女子短期大学から改組転換し、女子大学を開設(国際文化交流学部:日本文化学科・国際コミュニケーション学科)
 14年(2002)12月 学習院創立125周年記念式典を挙。行

■桜友会会員サービス部会

担当副会長

村上 智也 (昭31政)

部会長

高澤 寛 (昭35経)

編集委員長

吉江 隆信 (昭50仏)

スタッフ

圓谷 勝利 (平元政)

近藤 麻紀 (平3短家)

前川 弦信 (平8営)

富岡 哲也 (平9法)

五十嵐匡一 (平10史)

小林 雄太 (平10史)

田村麻衣子 (平10独)

高野麻結子 (平11仏)

中村 貴志 (平12物)

新井さゆり (平13政)

風間 景子 (平13史)

山口 紀和 (平13哲)

渡辺 大地 (平14政)

井上 裕美 (平14独)

山口 美子 (平14女子大)

山下 潤子 (平14女子大)



食卓の
四季

VOL. 19

江上種英 (昭60清)

えがみ・たねひで/昭和38年東京生まれ。江上料理学院主幹。食品食材のコーディネーターに従事。「日刊スポーツ」「小説すばる」「久保田通信」などにエッセイを執筆。

HOW TO
COOKING

- ベトナム風生春巻き
- ① えびは背ワタをとって茹で冷まし、皮をむいて半分に切る。
 - ② 豚も肉を塩と酒をいれた熱湯でゆで、冷まして千切りにする。
 - ③ きゅうりの千切り、サニーレタス、ミントの葉、もやしを用意する。
 - ④ ピーナッツは細かくくさいしておく。
 - ⑤ ライスペーパーに霧を吹いて、濡れ布巾をかぶせてもどす。
 - ⑥ ファイッシュソースにレモン、にんにくを加え、ソースをつくる。
- ①④をライスペーパーで包み、ソースをつけていただく。

ライスペーパー

RICE PAPER

東洋のプチパリとよばれるホーチミンは、サイゴン川にそって広がっている。植民地時代に整備された町並みに、聖母マリア教会や市民劇場などの19世紀に造られたフランス風の建築物が溶け込んでいる。川に面したメー・リン広場から放射線状に広がる通りのひとつを抜けると、並木の美しいドン・コイ通りにぶつかる。この通りの両側には、しゃれたカフェや、パテをはさんだフランスパンが食べられる屋台もある。すてきな雑貨屋のひとつにはいってみたい。小さなティーセットやお箸や器などが、やさしい光りの中にディスプレイされている。となりは漆のお店。日本では考えられないカラフルな色や金銀の漆器が並んでいる。デザインの洗練されたものは、ヨーロッパ人や日本人がデザインし、ベトナムの人々の丁寧な技術で仕上げられたものが多い。

レストランではこのような器の数々を使い、コーディネーターされた食卓でベトナム料理をいただく事ができる。アジアのテイストとフランス、中国の交じり合った料理は繊細で、色彩も淡く美しい。

花の形のデザートをおなかに納めて、夜の街を散歩していたら、シックなマジエスティックホテルに行き当たった。

ゴトゴトと古いエレベーターで屋上へ。ブリーズ・スカイ・バーはサイゴン川を一望することができる。夜風によって、下の熱気とオートバイの爆音が、かすかに立ち上ってきた。

生春巻きとサイゴンビールで乾杯したら、それぞれ明日の予定を考えてみた。フットマッサージ？ シルクのクロススのショッピング？ リバークルーズ？ ここでは、自分で創るオフタイムを過せるのだ。

[オプリージ] Spring No.38
Oblige

2003年3月25日発行

発行人/亀井 泓

発行所/桜友会

〒171-8588

東京都豊島区

目白1-5-1学習院内

☎03-3988-3288

編集人/村上智也

印刷所/共同印刷



人と自然そして建設が共にある未来へ。グラウンドデザイナー、カジマ。

in 鹿島
KAJIMA CORPORATION

本社：東京都港区元赤坂1-2-7 〒107-8388 <http://www.kajima.co.jp/>